

令和5年度 第2回美濃地区教科用図書採択協議会議事録(1日目)

- | | | |
|------|---------------------------|--------------|
| ・日時 | 令和5年7月14日(金) | 9:30 ~ 15:20 |
| ・場所 | 関市役所 6階 6-2会議室、答申者控室(6-1) | |
| ・出席者 | 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会委員 事務局 | |

【司会】

ただいまから、令和5年度 第2回岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を始めます。はじめに、採択協議会会長がご挨拶申し上げます。

【会長】

- ・委員の皆様ありがとうございます。委員の皆様には、今日との2日間、格別にお世話になりますが、よろしくお願い申し上げます。
- ・これから、各教科の調査研究を行っていただきました先生方を代表して、答申者から、各教科書における調査研究の結果を報告していただきます。教科書は、学ぶ児童生徒や教える教員にとって最も大切な教材であります。そして、その教科書の採択は、保護者はもちろんのこと一般市民の方々の関心も高く、透明度の高い、開かれた教科書採択ということが求められております。採択委員の皆様におかれましては、本会議の趣旨を十分ご理解いただいていると思いますが、このような状況から、委員の皆様には様々な視点から忌憚のないご質問やご意見をいただき、慎重審議の上、当地区の子供たちにとってベストな教科書を選定していきたいと思っております。それでは改めて、今日と休み明け火曜日の2日間よろしくお願い申し上げます。

【司会】

- ・今年度は、小学校の教科用教科書について、採択替えの年になりますので、資料のタイムスケジュールの順に協議をします。本日までに、この協議会により委嘱した研究員により、全ての発行者の教科書について研究しました。本日はこの研究結果について、答申していただきます。

国語

【答申者】

1 自己紹介

2 着眼点の説明

- ・国語科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区における国語科指導において、目的や意図に応じて必要な情報を取捨選択し、読み取ったことから自分の考えを表現することに課題があり、そのための基盤となる、読解力を身に付けることが必要になります。
- ・また、第3次岐阜県教育ビジョンでも重視されていますように、予測困難な未来社会を切り拓く子供たちが、ふるさとに誇りをもつこと、多様性の中で責任を果たすこと、ICTを活用し可能性を広げていく

こと等の資質・能力を身に付けることが求められます。

- ・岐阜県及び美濃地区の実態を踏まえ、着眼点1－(2)『読むこと』の領域に関して、各学年にどのような内容が位置付けられ、どのように系統立てられているか」着眼点2－(2)(3)「ICT活用や多様な学びにつながる学習内容はどのようなものが位置付けられているか」の2点の着眼点から3者全ての調査結果を説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・まずは着眼点1(2)『読むこと』の領域に関して、各学年にどのような内容が位置付けられ、どのように系統立てられているか」についてです。

①「東京書籍」は、

- ・「読むこと」の学習では、付けたい力を提示しています。教材のはじめには「見通す」としてその力に迫るための方法を記し、教材末には「取り組む」として、単元の流れや習得すべきポイントを記しています。
- ・巻頭目次の次に「言葉の力を集めよう」と題して、付けたい力や言語活動について示しています。また従来のノートの取り方とデジタルノートの使い方など学び方の提示も行っています。
- ・「読むこと」の学習を受けて、「書くこと」の学習へとつなげる複合的な学びを実現できるよう言語活動が設定されています。

②「教育出版」は、

- ・「読むこと」の学習では、教材末に「見通しをもとう」として、付けたい力及び単元の流れ、振り返りの視点を記しています。「ここが大事」として、読みを深めるためのポイントをまとめています。
- ・巻頭には、各学年「〇年生で学ぶこと」と題して付けたい力や言語活動が領域ごとにまとめられています。

③「光村図書」は、

- ・「読むこと」の学習では、教材はじめに既習事項を明記したうえで、付けたい力を示しています。教材末には、単元の目標、方法、単元の流れ、振り返りの視点を明記しています。振り返りの視点は、評価を意識して3観点になっています。さらに、「たいせつ」と題して、読みを深めるためのポイントを細かく解説しています。
- ・巻頭には、「どうやって学んでいくのかな」と題し、国語の学び方を図示し分かりやすく解説しています。また、「〇年生で学ぶこと」では、付けたい力や言語活動を明示するだけでなく、全学年での既習事項とのつながりを明確に示しています。巻末には「ことばの宝物」として語彙に関わる情報、さらに情報と情報の関係の表し方を記しています。
- ・「読むこと」の学習を受けて、「書くこと」の学習へとつなげる複合的な学びを実現できるようどの言語活動が設定されています。また、どの学年でも同様な構造となっているため、系統的・発展的な学びを実現できるほか、指導のリズムを生みやすくなっています。

- ・次に着眼点2(2)(3)「ICT活用や多様な学びにつながる学習内容はどのようなものが位置付けられているか」についてです。

①「東京書籍」は、

- ・どの学年の教科書にも QR コードがおよそ 100 収録されており、調べ学習の時間を削減できます。また補助資料も充実しています。
- ・3～6年生では、主に多文化共生に関わる読書教材が9つあり、多様な学びを支援する学習が充実しています。

②「教育出版」は、

- ・どの学年の教科書にも QR コードが 30～40 収録されており、学習の補助資料として活用することでイメージをもつことができます。
- ・1～6年生で、多様な学びを支援するための教材が6つあり、特別支援に関連する教材を中心に単元が組み立てられています。

③「光村図書」は、

- ・どの学年の教科書にも QR コードがおよそ 30 収録されており、児童が自分で調べる余地も残り、さらに意欲付けやイメージをもつための補助資料として活用できます。
- ・多文化共生や特別支援教育に関連する教材が6年間で11あり、まんべんなく、多様性について考える機会が設けられています。発達段階を考慮し、4～6年生で指導するようになっていることや「読むこと」単元を中心にするすることで、見方・考え方を広げることができるよう考えられています。

- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。

「目的や意図に応じて必要な情報を取捨選択し、読み取ったことから自分の考えを表現すること」に課題があり、ふるさとに誇りをもつこと、多様性の中で責任を果たすこと、ICT を活用し可能性を広げていくこと等の未来社会を切り拓く資質・能力を育成することが求められる美濃地区において、児童が目的意識をもち、主体的・対話的で深い学びを実現する工夫や配慮がなされていることが重要となります。

- ・以上のことから、「東京書籍と「光村図書」の2者がより美濃地区児童の実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点1(2)「『読むこと』の領域に関して、各学年にどのような内容が位置付けられ、どのように系統立てられているか」

について、単元の構成、主体的・対話的で深い学びにつながる学習展開、国語の学び方の3点から詳細に比較した結果を説明します。

- ・1点目単元の構成についてです。

①「東京書籍」は、

- ・3年生下8ページ「きょうみを持ったことをしょうかいしよう」の単元において、「書くこと」にあたる言語活動の紹介文を書くことができるように、「読むこと」にあたる教材文「せっちゃんぐざいの今と昔」を要約するよう工夫して構成されています。

②「光村図書」は、

- ・3年生下43ページ「れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」の単元において

読むこと領域の「すがたをかえる大豆」と書くこと領域の「食べ物のひみつを教えます」とを連続された単元構成になっています。「読むこと」領域において学んだ、順序だてて例示する方法を、教材文と似た題材で活用するように単元を組むことで、生きてはたらく力となるようによく配慮されています。

・ 2 点目主体的・対話的で深い学びにつながる学習展開についてです。

①「東京書籍」は、

・ 6 年生 1 8 6 ページ「見通す」 1 9 8 ページ「取り組む」 2 0 0 ページ「振り返る」のよう、児童の主体的な学びが促されるように配慮されています。

②「光村図書」は、

・ 6 年生 2 3 1 ページに「付けたい力」、「これまでの学習」を、 2 4 4 ページには「目標」「単元の流れ」や「振り返ろう」のように、主体的な学びを促す構成であることや学習指導要領で位置づいた 3 つの柱をもとにした自己評価ができる工夫がなされています。既習事項の何を使うと解決に向かうことができるかという方法も明記されており、たいへんよく考慮されています。

・ さらに、 2 年生 1 3 ページ、 3 年生 1 3 ページ、 6 年生 2 3 1 ページ、また 2 年生 2 6 ページ、 3 年生 2 8 ページ、 6 年生 2 4 4 ページのように、どの学年も似た学習の流れとなっています。そのため児童にとっても、指導者にとっても、取り組みやすくなっています。また、既習事項も示されていることから、系統的・発展的な学びが実現できるという点でもたいへんよく考慮されているといえます。

・ 3 点目国語の学び方についてです。

①「東京書籍」は、

・ 6 年生 8 ページ「国語学習の進め方」のように、「思い出そう」、「見通す」、「取り組む」、「振り返る」、「生かそう」の流れで、単元を通して付けたい力に迫るための方途が記されています。

②「光村図書」は、

・ 6 年生 1 0 ページ「どうやって学んでいくのかな」のように、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のどの領域にも通じる学び方を記しています。また、その単元のみで終わることなく、他の学習や生活につなぐことができるように、視覚に訴えかける形で示している点で、たいへんよく考慮されています。

・ 以上のことを考えると、「光村図書」が、より考慮されていると考えます。

【司会】

・ では、これより質疑に入ります。皆様、ご質問等ございませんか。

【委員】

・ ICT の活用に関わって各教科書に多くの QR コードがついていますが、現在、子どもたちはどの程度活用していますか。また、授業において QR コードをどう活用していますか。

【答申者】

・ タブレット等の ICT 活用については、各市町村や学校間でばらつきはあろうかと思いますが本校で言いますと 1 年生から 6 年生までタブレットを使用して学習活動をしております。場合によって、市の ICT 支援員等に派遣願うご指導いただきながら活用をしております。子どもたちの技能の習得という

ものは私たち教員が驚く程のスピードで飛躍しております。タブレットやスマホで QR コードを読み取っていただくと、どの教科書会社も関連のサイトにアクセスできるようになっております。中には、写真、動画、音声といった多様なジャンルで掲載されております。数としては、東京書籍が多いわけですが先程報告させていただきましたように、子どもたちやあるいは授業者がひとつの補助の手立てとしての使いやすさや、その後の子どもたちの主体的な学びに余力を残す形に光村図書がなっていると判断させていただきました。

【委員】

- ・美濃地区のこと、岐阜県に関わる特徴があるような教科書はありませんでしたでしょうか。

【答申者】

- ・岐阜県教育ビジョンの「ふるさとへの誇りと愛着を育む」といった観点からも調査させていただいております。先程と重複するところがあるのですが、全国版の教科書ですので、特定のこの地域のことが紹介されているようなことは確認しておりません。ただ、この後、地域の中へ目を向けてみよう、自分のまちを見つめてみようと言った学びに繋がっていったり、積極的に言語活動の中で自分たちのまちや学校を良くしていくディベートをしよう、話し合いをしようという活動に繋げるようなものが載っております。東京書籍は、2年生5年生で地域を知り、魅力発信する単元が位置づけられております。6年生では市で地域施設に繋がるように郷土に関心をもてる工夫がされております。教育出版は2年3年5年と地域について知り、発信する活動が位置づけられており、6年生では地域施設に学ぶ機会が設けられています。光村図書は読書教材を中心に、郷土への誇りや愛着を深めることができるように設定されているのが特徴です。また、生活科とも関連をはかり2年生に特筆して配置されております。

【委員】

- ・国語科なので、地域のことが出てくることはなかなかないとは想像がついていたのですが、他の教科との関連をはかっていることが分かり素晴らしいと思いました。私たちの市では、対話を大事にしていこうと考えおりますから、その点から3者を見させていただいても光村さんのものは、様々な場面においてみんなで考えよう、誰かに伝えようということを大切にされていることが分かりました。

【委員】

- ・読解力について、各者、教科書の情報量が非常に多いので各者のセールスポイントを教えてください。

【答申者】

- ・読解力をつけるということが、課題でありまして、東京書籍の特徴は、各観点で他の領域につながっていくというよりは、そのことについて重点的に単元でやっていくという方向をとっております。教育出版は、話すこと・聞くこと・書くことの単元が6年間を通じて大きく設けてあり、他の教科での学びに生かしたり、自分の考えを表現したりできるようになっていると思われまます。光村図書については、どの領域においてもバランスよく配置する中で、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことを繋げながら読解力を鍛えていくという配置になっております。6年間を通じて同様のリズムで並行的に学ぶことができ、そのために螺旋的、反復的につけたい力をつけることができる教科書になっていると調査したところ捉えさせていただきました。

【委員】

- ・東書、光村の2者、よくできているなあと思っています。

その中で、インパクトがあったのが、提示された6年生の「海のいのち」です。全く一緒に、挿絵も一緒に、どう違うのかと思って見てみました。一つ、目についたのが光村のほうの下の方にクエという魚があったり、イサキとかがあったりしています。東書の方は文章で3行くらい説明が書いてあります。光村の方はイラストが載っていて、その横にQRコードがあります。恐らく、今、子どもたちはタブレットを常時使って学習しているので、イサキとかクエとかどんな魚かイメージがつかないときは、タブレットを使って、こんな大きな魚なんだと調べるのだと思います。それは、主体的な学習につながります。これから大事なのは、学ぶ力、本人が調べていこうとするそういうものだと思います。今見た感じだと、両方ともよくできているのですが、そこが違うと思いました。

- ・多文化とか、特別支援教育という観点で見た時、光村で例えばどうゆう教材が多文化共生につながっているのでしょうか。具体的に教えてほしいです。

【答申者】

- ・多文化共生については、外国文学であったり、外国の文化に触れるような内容のもの、例えば、光村の2年生「スーホーの白い馬」外国文学であったり、そういうものも含めて多文化共生という視点で拾い上げております。また、特別支援という括りでバリアフリー社会等、特別支援教育の領域に関わるようなユニバーサルの考えであったり、バリアフリー等について扱っている教材を拾い上げました。その結果、東京書籍は、6年間で9つ。3年生から6年生で指導できるように仕組みられています。多文化共生の教材が東京書籍は中心となっており、焦点化して系統的発展的に指導できるようになっております。教育出版は、6つ。1年生から4年生でバリアフリー社会の観点の教材が中心で、それ以降に掲載はありませんでした。光村図書は11あり、どの学年にも多文化共生の観点もバリアフリー社会の観点も存在しておりました。読むことの学習を多く取り入れることで、見方考え方をより広げていくことができるように仕組みられているように感じました。発達を考慮して高学年になると読書教材を中心にバリアフリー社会、及び特別支援教育に関わるような内容のものが重点的に配置されておりました。

【委員】

- ・大変が分かりやすい内容でした。系統だったという点で、光村が良いということで、そうだな感じました。1つの考えとしてですが、東京書籍はQRコードが他者の3倍あります。内容を見ますと、至るところで練習問題であったり、語句を説明するところであったり、実際に内容までは確認していませんが、授業者、担任にとっては、そういう選択があるということで使いやすいかなと感じます。あるいは、子どもたちが分からない言葉、例えば原子爆弾が分からない中で、説明などもタブレットで自分で調べることができます。主体的に学べるということで、たくさんQRがあった方が良いのではないかなという思いもあります。そういうことも感じました。

【司会】

- ・今までの答申のなかで、それを受けて質問、検討を進めて参りました。その結果から、光村図書を採択することが望ましいという方向だと思われませんが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

書写

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・国語科書写では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を18ページ以降の意見書にまとめました。
- ・美濃地区における国語科書写指導の課題は、「文字を正しく整えて書くための知識技能を思考や対話を通して習得すること」と「習得した知識技能を他教科や生活に横断的に役立てようとする態度」の育成にあります。
- ・これらの課題と関連がある着眼点1として1－(3) 主体的・対話的で深い学びからの授業改善（書写の学習の学び方や進め方がどのように示されているか、学習を見直し振り返る活動がどのように取り入れられているか。）着眼点2として2－(3) 多様な学びを支援する教育の充実（各教科等の学習や生活の様々な場面等へ結び付ける言語活動はどのような内容でどの程度の分量であるか、適切な運筆する能力の向上につながる、補充的な指導内容はどのように工夫されているか）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・着眼点1の1－(3) 主体的・対話的で深い学びからの授業改善、着眼点2の2－(3) 多様な学びを支援する教育の充実について、3者すべての発行者を調査し、その結果を説明します。

①「東京書籍」は、

- ・「書写のかぎ」として整った文字を書くためのポイントについて、インデックスの配色を統一し、系統立ててとらえられるよう工夫をしています。なお、6年の巻末には、6年間の「書写のかぎ」が一覧にまとめられています。
- ・学び方は「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3つのステップです。「見つけよう」では、対話を通して「書写のかぎ」に迫れるようにしています。
- ・また、振り返りは毛筆学習から「考えた」「わかった」「書けた」と、対話や思考の学習場面を大切にしたい観点が設定されています。
- ・他教科や生活につながる言語活動は、各学年とも、4～6個挙げられています。
- ・水書（1・2年）については、1年生の初期に「水筆」や「絵具筆」の紹介とともに、点画の特徴やリズムが意識できる工夫がされています。

②「教育出版」は、

- ・どの学年も、目次のページにその学年で学習することが一覧で示され、年間の見通しがもちやすくなっています。学習の進め方は、「つかむ・考える」「確かめる」「振り返る」「生かす・広げる」の4つのステップです。「つかむ・考える」では試し書きから気を付けることを見つけ、「確かめる」で実際に書いたのち、「振り返る」で、友達と伝え合うことを大きく位置付けています。

- ・はじめに題材としての手本があり、次のページの「考えよう」で書くためのポイントが示される構成とし、硬筆による「試し書き」と「まとめ書き」の欄を各題材とも位置付け、硬筆へのつながりに配慮しています。
- ・振り返りは、学習事項に絞り、ニコニコマークや◎○△で回答する形式となっています。
- ・すべての学年の「生かす・広げる」ステップに他教科や日常生活に生かす言語活動例があり、特に3年生以降では、5～8個と多くの題材が示されています。
- ・水書は、1年生のひらがな学習のはじめからの使用を位置付けています。

③「光村図書」は、

- ・各題材の学習過程が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」となっています。
 - ・巻頭にある「考えよう」の紹介欄では、学年に応じて、話し合う活動の他に、空書き（3年）、文字比べ（4年）、文字をなぞる（5年）、教科書の文字と比べる（6年）などと多様な対話形式が示されています。また、「たしかめよう」で、書いたものを友達と確かめ合い、「生かそう」では、硬筆への接続をしています。
 - ・各題材のはじめは、よい例と悪い例、形の違いを大きく示し、視覚的に比較がしやすく対話の焦点化を図っています。また、穴埋め文の活用で、「たいせつ」に迫れる工夫もあります。
 - ・振り返り項目は、各題材において「できた」や「気をつけて書いた」にチェックを入れる形で、ねらいと連動させたシンプルな形です。
 - ・他教科や生活に生かす言語活動は、各学年示され、4年以上では、4～6個の題材が示されています。6年生には「書写ブック」が教科書の中ほどに綴じこまれ、6年間の学びを日常生活につなぐ事例がまとめて示されています。また、地域と文字文化に関連した資料も多く、岐阜県を取り上げた資料も3年生、6年生に採用されています。
 - ・水書は、1年生のカタカナ指導から導入しています。
 - ・以上、各発行者の特徴について説明しました。
- 「知識技能を、対話等を通して習得」し、「他の教科や日常生活に横断的に役立てようとする態度」の育成に課題がある美濃地区については、児童が「文字を書く知識技能を目的に応じて他教科、日常生活に生かすことのできる実感できる」学びとなるようにすることが重要となります。
- ・このような点から、各者を検討した結果、「東京書籍」と「光村図書」の2者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点2－(3)多様な学びを支援する教育の充実からより具体的に比較します。
- ・まず、他教科や日常生活の様々な場面へ結び付ける言語活動について、主に5年生を例に説明します。
- ・東京書籍は、ノートづくりのために横書きの整え方、リーフレットやカード、寄せ書きなどの言語活動を、それまでに学習した「書写のかぎ」との関連を明確にして示し、委員会活動や6年生を送る会などの学校行事に生かせるよう工夫されています。
- ・光村図書は、書く時の速さとインタビューのメモ、新聞づくり、6年生を送る会に向けて、英語で書く、手紙の書き方など、学校における具体的な場面で参考にしやすいよう、よく配慮されています。現在の

美濃地区における学校行事とも関連が見いだしやすく、身近な例として読むことができるようになっていきます。

- ・また、4年生における「SDG s ブック」にもあるように、書写の伝統的な文化としての側面だけでなく、現代や未来との関連を意識できるようよく配慮されています。
- ・では、運筆能力の向上につながる補充的な指導に関わって、低学年の水書用筆の使用について説明します。
- ・学習指導要領の書写の1・2年には、「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことについて、適切に運筆する能力の向上につながるよう、水書用筆等の使用など、早い段階から硬筆能力を高めるための関連的な指導を工夫することが望ましい、とあります。
- ・水書筆は、点画の始筆・送筆・終筆といった一連の動作を繰り返し練習し、硬筆での適切な運筆の習慣につなげることと、3年生からの毛筆学習への移行を円滑にすることをねらったものです。
- ・東京書籍は、教科書でいうと1年生の10ページから様々な筆記具として水筆を紹介し、その後の題材において、随時使用することとしています。
- ・光村図書は1年生の27ページ、カタカナの点画指導と合わせて水筆の使用を明確に位置付けています。その後、2年生にかけて、水筆の使用箇所を明示して指導事項をつなげています。
- ・実際の指導の中では、1年生の入門期において文字の形を指導する際は、一つ一つの見取りと教師の丁寧な修正が必要です。主体的に繰り返し運筆を練習する早い段階として、ひらがな指導を一通り終え、点画の意識を高めるカタカナや漢字の導入と合わせて水筆を使用し、2年生を経て、3年生の毛筆指導への移行とする光村図書は大変配慮されています。
- ・さらに着眼点1－(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、書写の学び方や学習の進め方の示し方、学習の見通しと振り返りの活動について、2者共通の題材で比較します。
- ・まず、5年生の「道」です。
- ・東京書籍は、「『によう』と上に乗る部分の組み立て方にはどのような関係があるだろう。」と課題を提示し、「書写のかぎ」として、「によう」の「右はらい」を長く書いて、上に乗る部分の右側を少しあげる、とまとめています。これは、実際に書く順序と合致しています。さらに、にようと上に乗る部分の高さの関係にも触れ、他の漢字に広がるように配慮しています。
- ・光村図書は、ア・イの二つの事例を示し、整った文字になるための理由を考えるようにしています。そのプロセスは、多様な対話の形式に対応しています。そして、「たいせつ」として「『によう』の右はらいが、中の部分より右に出るように書くと字形が整う」とし、児童にとって、書き方のイメージが持てる表現をしています。
- ・また、毛筆から硬筆へのつながりが確かめられるよう、ページ構成が大変配慮されています。
- ・6年生の「湖」で比較します。
- ・東京書籍は、組み立て方（三つの部分）として、「漢字がほかの漢字の部分になるとき、どのようにかわるか、マスに書いて考えよう。」と課題を提示し、左右に組み立てられる場合、上下に組み立てられる場合を示しています。課題の下にはQRコードがあり、その内容は、部分の形の変化が動画で示され、課題の意図が把握しやすくなっています。また、「幅や高さ、位置はどうなったかな」と新たな視点も提示するなど、動画を利用することでより「書写のかぎ」にせまれるよう配慮されています。
- ・光村図書は、3つの部分の組み立て方について、「漢字の字形の整え方を考えよう」と課題を提示、「働」

くの漢字を例に、イラストも含めて、三つの部分の位置関係にも気付けるような構成としています。QRコードはなく、動画は利用しませんが、題材を絞って、イラストなどで「字形が整う」しくみに気付けるようにしています。さらに、「街角」の書写の手本を示すとともに、これまで学習した部分の組み立てに関わる文字についても硬筆で確かめるようにしており、よく配慮されています。

- ・また、56年の教科書でみると、
 - ・東京書籍は5年で、「書きやすいのはどちらか」「(こう)すると字形が整う」「だれにどのようなことを伝えるか考えよう」、6年で「分かりやすく伝える書き方」など文字を書いて伝える技能の習得についてのめあてが分かりやすくまとめられています。
 - ・光村図書は、5年「手書きから受ける印象」、「書きやすさより読みやすさ」「文字の大きさと読みやすさの関係」「配列、筆記具に注意して書くと読みやすくなることを理解しよう」、6年では「点画のつながりと読みやすさの関係」「情報の伝わりやすさ」「相手のことを考えてていねいに書く」など、技能の習得に加え、受け取る側にも目を向け、国語科の目標にある「(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め」る点にもよく配慮されています。
 - ・QRコードについては、
東京書籍は151(5年18, 6年16)、光村図書は363(5年31, 6年27)でした。
 - ・どちらも、手本の書き方を動画で丁寧に提示し、指導者の書写の技量にかかわらず、適切な示範ができることは大変有効です。
 - ・光村図書の動画は、右手で書く場合と左手で書く場合や、示範動画では正面からと斜めから映してポイントが分かりやすいよう工夫されています。また、外部サイトとのリンクがされているなど、主体的な学びのツールとして有効活用ができるよう、よく配慮されています。
- 以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは、皆様、ご質問等ございませんか。

【委員】

- ・感想ですが、1年生の硬筆のスタート、最近鉛筆の持ち方が下手な子どもが昔より多い気がします。そういう点で教える先生が指導しやすい、子どもにとっても分かりやすいという点で見ると、個人的な意見ですが、教育出版は駄目だなと感じます。東京書籍よりもやはり光村の方が非常に丁寧に分かりやすく、しかも教えやすいなと感じました。これは、3年生の毛筆のスタートでも同じような傾向があるなと思います。内容はともかく、きちんと鉛筆が持てるのか、きちんと筆が運べるという点では、光村がよいのではないかなと思いました。
- ・似た漢字や形といった興味をもてる教え方、左手で書く人、右手で書く人、どのクラスにも居るので、子どもたちにとって分かりやすく、興味をもって使えるものだと感じました。
- ・初めて学ぶ1年生という時点で見たと、光村の方は、例えば「の」をのんびり・ゆっくりという言葉が書かれています。自分の経験でも子どもが分かりやすい、イメージしやすいような指導をしてきたように思います。そういった言葉が書いてあります。今後のはらいやはねといった指導の際、子どもに伝わる投げかけがあるのではないかと、子どもの立場を思ったときにそう感じる事ができました。先程同様、この頃は左利きの子を無理に右利きに矯正するといった指導を家庭も学校もすることがない

ようになっています。そういう意味でも、左利きへの配慮が光村ではよくできているのではないかなと感じました。

- ・1年生の鉛筆の持ち方について、関心を抱いています。また、今の教科書は、右利き、左利きの両方をどの会社も出していますが、東書は右利きも左利きも両方ともについての写真を出しています。光村は、右の人が1枚写真で出ていてQRコードで左手で書く人の様子を見ることができるようになっています。その辺りで見ると、東書の方が両方出ているというように見えますが、インパクトがあるのは、1枚の大きな写真の方ではないかと思います。東書も光村も両方配慮していますが、東書は細かく分けすぎて大事なところのポイントが気づきにくくなってしまったのかもしれない。やはり、大きな写真でポイントを絞っている光村がよいかなと感じました。
- ・昔はなかった水書のシートが3者ともついています。その中で、光村だけが1年生用のものにマスが付いている点は、配慮があると感じました。
- ・6年生の「湖」を見させてもらいました。教える側で見ると、幅と高さの指導についてこだわって書いてあるのは光村のみでした。光村は高さまで指導してあり、よくできていると思いました。
- ・光村の6年生の最後の方に、「私の文字」というページがあります。書写という学習は、正しい文字を書くというイメージがありますが、個人の文字から自分の文字を振り返る、個性まで考えさせる内容が載っているのは、とても素敵だなあと思いました。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、光村図書を採択することが望ましいと考えられますが。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

社会

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・社会科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を〇ページ以降の意見書にまとめました。
- ・美濃地区における社会科指導の課題は、(1)社会科を専門としない教師でも、公民的資質・能力の基礎を児童に育成するため、授業においてどのような社会的な見方・考え方を大切にするのかを明確にして問題解決的な学習を進め、「主体的・対話的で深い学び」をつくること、(2)教育のICT化に伴い、児童が学校や家庭においてICTやタブレットを効果的に活用して、自ら問題解決に取り組んだり、仲間と協働して問題解決に取り組んだりすることができるようにすること。です。
- ・そこで、美濃地区のこれらの課題と関連がある、着眼点1-(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、着眼点2-(2)ICTを活用した学習活動の充実の2点から3者すべての調査結果を説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

着眼点1-(3)「主体的・対話的で深い学び」から説明します。

① 「東京書籍」

- ・東京書籍の教科書は、単元を「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4つの学習段階で構成され、「学習の進め方」コーナーで問題解決的な学習を学ぶことができるようよく配慮されています。
- ・見開きページの適所にドラえもんが目印の4種類の「社会的な見方・考え方」の囲みを提示し、児童がどのような見方・考え方を働かせればよいか分かるよう配慮されています。
- ・見開きページの下部に「まなびのポイント」として具体的な学習活動を例示し、単位時間の学習が「主体的・対話的で深い学び」につながるよう大変よく配慮されています。

② 「教育出版」

- ・教育出版の教科書は単元を「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の4つの学習段階で構成し、児童自身が社会科の問題解決的な学習を分かりやすく進められるよう配慮されています。
- ・見開きページの様々なところに人物イラストの吹き出しで6種類の「社会的な見方・考え方」を提示し、単位時間の中で児童がどのような見方・考え方を働かせればよいか具体的な言葉で示してあります。
- ・見開きページの左上に「この時間の問い」、右下に「次につなげよう」を提示し、単位時間の学習内容が次の時間の学習につながるよう工夫され、児童の問題意識が継続、連続するよう配慮されています。

③ 日本文教出版

- ・単元のまとめでは、話し合い活動を重視し、主体的・対話的な深い学びにつながる「深め合い」という対話的な活動を設定しています。
 - ・見開きページの左端や右端にマークで3種類の「社会的な見方・考え方」を提示し、児童がどのような見方・考え方を働かせればよいか端的に示してあります。
- 次は、着眼点2-(2)「ICTを活用した学習活動の充実」から説明します。

①「東京書籍」

・ICT の活用は、社会科教科書全体で200以上の二次元コードが設定され、各学習段階に応じた多様なコンテンツが非常にバランスよく準備されています。

②「教育出版」

・ICT の活用は、社会科教科書全体でおよそ200の二次元コードが配置され、一人一台端末を想定した多様なコンテンツが準備されています。

③日本文教出版

・ICT の活用は、社会科教科書全体で550以上の二次元コードによる多様なコンテンツが準備され、一人一台端末を想定した配慮がよくされています。

以上、各教科書の特徴について説明しました。

社会的な見方・考え方を明確にして問題解決的な学習を進め「主体的・対話的で深い学び」につなげる指導に課題があり、ICT を効果的に活用して、個別、または、仲間と協働して問題解決に取り組んだりする学習の充実が求められている美濃地区においては、児童が課題意識を強くもち、ICT を活用したり、社会的な見方・考え方を働かせたりしながら問題解決的な学習を進めて、「主体的・対話的で深い学び」ができるようにすることが重要となります。

以上から、各者の特徴を検討した結果、「東京書籍」と「教育出版」の2者がより美濃地区の実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

続いて、この2者を着眼点1-(3)「主体的・対話的で深い学びの視点」において、顕著な例を提示して比較します。

1点目は「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で大切な問題解決的な学習についてです。

①東京書籍は、どの学年も最初の単元に問題解決的な学習の進め方を設定し、児童が課題意識をもって学習の進め方を学べるように工夫しています。5年生の教科書では、上22ページ「低い土地のくらしー岐阜県海津市ー」の単元で海津市を例に挙げながら「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習の進め方について、ていねいに解説しています。これは、児童自らの力で予想をもとに調べ、考えをまとめるという基礎的・基本的な力を育てていくうえで大変効果的な配慮です。

②教育出版は、単元の中ではなく、どの学年も教科書の巻頭に説明コーナーを設け学習の進め方を解説しています。

2点目は「社会的な見方・考え方」についてです。

①東京書籍は、「位置や広がり」に着目させたいときは「タケコプターのドラえもん」イラスト、「時間」に着目させたいときは「タイムマシンのドラえもん」イラストというように、児童が働かせるべき4種類の「社会的な見方・考え方」を一目で理解できるようにドラえもんのイラストの種類を変えて表示しています。また、「日本の気候は時期や場所によってどのようにちがうのかな？」のような具体的な問いかけもイラストの横に表示して、どのような見方・考え方を働かせればよいかがよく分かるように工夫しています。これは、社会科を専門としない教師にとっても、授業で大切にすべき社会的な見方・考え方が明確になるため、大変よい配慮といえます。

②教育出版は、「時期や変化」「場所や広がり」「工夫や関わり」「比べる」「総合する」「関連づける」の6つの社会的な見方・考え方を8人の人物イラストの吹き出しで表示しています。その吹き出しは「地形の特色とどんな関係があるのかな？」などの問いかけ形式や、「気候の違いと南北の違いとの関係を、工を見て考えましょう」などの活動の呼びかけ形式、「気温の違いは南北の違いに関係しているね？」などの気づきの形式で表示されています。これは、主体的な学びを促すうえでよい工夫といえます。ただ、吹き出しの数が多いことや、資料名を記号で表示していること、登場する人物イラストが多いことが、児童にとまどいを感じさせる面もあると考えると考えます。また、「気温の違いは南北の違いに関係しているね？」のような気づき形式で表示された吹き出しの中には、本来児童自らの力で気付かせせたいと内容もあると考えます。

3点目は「深い学び」の工夫についてです。

①東京書籍は、3～6年生の教科書の見開きページの下部に学習段階に応じた具体的な学習活動を「まなびのポイント」として例示しています。5年生上「水産業のさかんな地域－鹿児島県－」の単元で説明しますと、

- ・「つかむ」では、「学習問題について予想し、学習計画を立て、学習の見通しをもとう」
- ・「調べる」では、「かつお業の方法の違いがある理由を話し合おう」「どのようにセリが行われているか話し合う」「水産加工品は、かつお節のほかにもどのようなものがあるか、話し合おう」「つくり育てる漁業はどのようなことを大切にしているか、話し合おう」「水産資源を守ることは、私たちの生活とどのように関係するのか、話し合う」
- ・「まとめる」では、「これからの日本の水産業についてプレゼンを使って自分の意見や考えをまとめよう」です。

単元を通してみると、「まなびのポイント」が「対話的な学び」や言語活動、表現活動を重視し、「深い学び」に向けてよく配慮されていることが分かります。

②教育出版は、5年生96ページ「鹿児島県・長島のぶり養殖のくふう」をご覧ください。見開きページ左上の「この時間の問い」に学習問題として「養殖業は、魚をどのように育てて出荷しているだろう」が表示されています。そして、右下には「次につなげよう」として、「とる漁業も育てる漁業もさまざまな工夫や努力をしているね。水産業の生産量は増えているのかな？」という問いかけが設定されています。そして、次の学習となる98ページの「この時間の問い」には、「日本の水産業はどのように変わってきているのだろう」という学習問題が設定されています。このように「深い学び」に向け児童の問題意識が継続、連続するよう工夫されています。

さらにこの2者を着眼点2-(2)「ICTを活用した学習活動の充実」において、顕著な例を提示して比較します。

1点目は「二次元コード」の配置についてです

①「東京書籍」は、6年生上5～35ページ「私たちのくらしと日本国憲法」と「国の政治のしくみと選挙」の2単元に二次元コードが8つ配置されています。また、東京書籍の教科書には、「つかむ」段階に「学習計画ワークシート」が、「まとめる」の段階には「まとめるワークシート」のコンテンツが、一人一台端末を想定し、児童一人一人の個別最適な学びにも対応できようよう意図的・計画的に配置されています。このことは社会科を専門としない教師もねらいに沿った学習指導が進めやすくなるという点

でよい配慮といえます。

①今述べました東京書籍の2つの単元に該当する教育出版の単元は、6年生12～33ページの「憲法と私たちにくらし」です。この単元にある二次元コードの数は2つです。教育出版も「まとめる」段階には、ワークシートのコンテンツが必ず設定されていますが、「つかむ」段階にはありません。

2点目は「デジタルコンテンツの内容と種類」についてです。

①東京書籍のデジタルコンテンツの種類は、動画、ワークシート、ウェブサイト、資料等です。コンテンツ名もコード横に記されておりとても分かりやすいです。東京書籍は、「つかむ」段階の適所に、「学習のはじめに見てみよう」というコンテンツを設定し、児童の学習意欲や問題意識を喚起するための動画資料が準備され、主体的な学習につながるようよく配慮されています。

②教育出版のデジタルコンテンツの種類は、動画、ワークシート、ウェブサイト、読み物、クイズです。ただ、コンテンツの中には、自社製外の資料も多く、児童の発達に即していないものも見られます。また、どんなコンテンツか分かるようにコード上にマークで表記してありますが、小さく分かりづらいです。

・以上、着眼点1-(3)、着眼点2-(2)から見て、東京書籍が児童にとってよく配慮されたのであると考えます。

以上が調査研究の結果となります。

【司会】

・では、これより質疑に入ります。何かご質問等ございませんでしょうか。

【委員】

・社会科における資料の取り上げ方・量・適切化において、2者で違いがあれば教えてください

【答申者】

・特に2次元コードの資料に関わって言いますと、東京書籍は、自社製の資料が多くあり、教科書の資料と2次元コードがタイアップしています。それに比べますと、教育出版は、自社製以外の資料も多く、他のサイトの動画資料へとんでいくことがあります。その資料が若干子どもたちにとって難しいと感じる場合があるかもしれません。また、東京書籍は、単位時間内でどの位の資料が必要かを想定してまとめられているように思います。他者の動画にとんで見せる場合は、授業を進める上で、少し時間がかかるのではないかと感じます。適切な資料の配置や配慮が若干違うと感じます。

【委員】

・6年生だけ、東京書籍は何冊かに分かれていて、中学への繋がりを意識していると感じました。3年生では自分の地域に目を向けていくのですが、2者を比較して、より興味関心のある地域の教材などの違いや特徴はありましたでしょうか。

【答申者】

・3年生から社会科が始まります。最初の単元が市の様子について学ぶ内容になり、そのために学校の周りを見てみよう！というように身近なところから入っていく。ここに、大きな違いはない。3年生の最後に、「市の移り変わり」の単元があり、自分たちの市の今後について考える、そういった学習の流れになっている。東京書籍には、そこに少子高齢化・外国人の増加という要素が入っている。教育出版は、少子高齢化は入っているが、外国人の増加の部分は欠けています。より身近に感じられる配慮としては、東京書籍の方が少しあるのかなと思います。

【委員】

- ・ICT を活用した学校や家庭における問題解決に取り組めるようにすることが、地区の課題として挙げられています。家庭学習につながるような凡例があれば教えてください。

【答申者】

- ・東京書籍は「つかむ」という問題解決学習の最初の段階の中に、適所「学習の始めに見てみよう」というものがあります。教科書の「つかむ」段階にある写真資料などの動画を見たり、より詳しい解説を聞いたりすることができます。それを見ると問題意識をもてるように工夫されている点が東京書籍にはあります。残念ながら、教育出版においては、「つかむ」段階においては、2次元コードは見られません。この点を見ますと、個別最適な学び、主体的な学びという点では東京書籍の方が配慮されていると考えます。

【委員】

- ・他の2者は、いきなり「考えてみよう」というつくりになっていますが、東京書籍は「つかむ」で問題意識を持たせる工夫があります。これは、素晴らしい工夫だと感じました。これだけの2次元コードがあれば、副教材はいりませうでしょうか。買わなくてもよい教科書があれば教えてください。

【答申者】

- ・6、5年生は少し分かりづらいですが、例えば3、4年生は地域教材ですので、やはり地域のことを学ぶ上ではどこの市町村でも3年生では副読本をつくっています。そういう意味では、副読本を購入して教科書と学び方と併せながら、資料を使って学んでいくと良いのかなと思います。

【委員】

- ・3、4年生の担任の先生がよく困られているのは「教科書をどう使ったらよいか」というものが多くある気がしています。1時間の活動の中身や、学びのポイントがよくわかります。社会の専門外の先生でも教えやすい教科書だと思いますし、教えやすいということは、子どもたちにとっても見通しをもって学習しやすいということですので良いと思います。
- ・6年生だけのことですが、教育出版の導入が非常によいと感じます。パラリンピック、オリンピックから考えるという流れになっており、構成として面白いと感じました。歴史についても教育出版は、イラストや絵がダイナミックで子どもたちにとって使いやすいのではないかと思います。しかしながら、総合的に判断すると他の学年もありますので、学年間、分野間でこちらがよいなというようなことはありましたか。

【答申者】

- ・やはり、どこの教科書会社も児童にとってよりよい学びになるように工夫されているので、資料1つとっても、この單元ではこの資料がいい、この写真資料がいいと、やはりありました。色んな教科書の色んな資料を使えば良いのですが、それができませんので、トータル的に見た時に、社会科を学んでいく上で、社会科の学び方や、社会科に必要な見方、考え方を総合的に学んでいく上でよりよい教科書という考え方で判断しています。やはり、一長一短はあると思います。

【委員】

- ・同和問題をきちんと教えることが必要だと思いますが、3者において違いはありましたか。

【答申者】

- ・人権の問題になるとは思いますが、どの教科書も人権問題はきちんと扱っていると思います。その中で、

例えば、多文化共生という考え方で見ると、6年生の教科書の最後の方には、各国の様子を取り上げている単元があります。その中には外国人の写真資料やインタビューがあり、多文化共生のために尽力している人たちの様子を取り上げられています。1つの事例ではありますが、そんな風に関心意識を高める工夫が見られます。人権については、どの会社も同じように力を入れていると思われま

【委員】

- ・小中のつながりを見た時、東京書籍は分冊になっています。中学校へ入りますと地歴公民に分かれていますので、子どもたちにとっても分かっていた方が分かりやすいと思います。また、社会科は、資料が命、資料が非常に大切だと思っています。先程の答申にもありましたが、政治や国際編のところ

【司会】

- ・皆様の質問やご意見、または答申者の答申ということで考えますと、東京書籍を採択することが望ましいと考えられますが。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

地図

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・社会科地図では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、すべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区における社会科地図指導においては、「地図帳の基本的な使い方を身に付け、地図を通して各地域の様々な情報を読み取り、地図を活用する力」と「主体的、発展的に学習を進める意欲や態度」を育成することに課題があるととらえています。
- ・これらの課題と関連がある着眼点1（1）、着眼点1（3）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

4 調査研究結果の比較

- ・まず、着眼点1（1）「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」について、説明します。
 - ①「東京書籍」では、
7ページから「地図学習」として、地図のきまりや地図帳の使い方について、8ページにわたって丁寧に説明されています。また、方位や地図記号についても、P9、P10にそれぞれ1ページにまとめて説明されています。
 - ②「帝国書院」では、
7ページから「地図のやくそく・地図帳の使い方」として、地図帳を活用し始める3年生の発達段階に応じて、丁寧な説明が14ページにわたって記述されています。また、方位や地図記号についても、P11～12とP13～14に、見開き2ページずつで説明されています。
- ・また基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るという面から比較すると、
 - ①「東京書籍」では、
・8ページある地図学習の中に、「ホップ/ステップ/マップでジャンプ!」というコーナーがあり、方位を問う問題や地図記号を考える問い、距離を求める問いなどが設定されており、地図活用の基礎・基本の習得を図ることができる内容、構成となっています。
 - ②「帝国書院」では、
・14ページある「地図のやくそく」の中に、「トライ!」というコーナーがあり、方位を答える問題や地図記号を答える問題が書き込み式になっています。またP16にはたからじまの地図を見て答える総合的な問題が設定されており、3、4年生の児童が親しみをもって、地図活用の基礎・基本の習得を図ることができる内容、構成となっています。
- ・続いて着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について比較しました。
- ・同じ北海道の地図で比較して説明します。東京書籍51、52ページ、帝国書院77、78ページをご覧ください。

①「東京書籍」では、

- ・「ホップ/ステップ/マップでジャンプ」で難易度を1から3とし、星で表しています。
- ・QRコンテンツ内にある解答と合わせて問題の進み具合がわかる「がんばりシート」で、自分の取組を可視化することができます。
- ・ステップを踏んで地図活用の技能や社会的な見方・考え方を育成し、児童の主体性につながるように配慮されています。

②「帝国書院」では、

- ・「地図マスターへの道」というコーナーを設け、難易度を1から3とし、星と色で表しています。
- ・「石狩平野、十勝平野、根釧台地では、それぞれどのような土地利用が多いかな。」(5年 気候と生活)と、学年と単元名の表示によって具体的な活用場面が分かり、地図を活用した学習活動を設定することで、社会的な見方・考え方を働かせながら、地図帳を活用する深い学びにつなげることができます。
- ・巻末124ページに「地図マスターへの道にちょうせんしよう!」という児童が自らの取組を記録できるページを設け、各学年の目標を示し、4年間の取組を記録していくことで、達成感を得ながら児童が主体的に地図帳を活用しようという意欲につながるよう、よく配慮されています。
- ・美濃地区の地図指導においては「各地域の様々な情報を読み取り、地図を活用することや主体的に学習を進める」ことに課題があります
- ・そこで、この2者を着眼点2(2)「ICTを活用した学習活動の充実」と2(3)「多様な学びを支援する教育の充実」からさらに比較します。
- ・2者とも、各所にQRコードが配置され、タブレット端末で読み込むと資料につながるようになっています。

①「東京書籍」は、

- ・QRコードを読み込むと、137のコンテンツが設けられています。その内容は主に、「クイズ」「かるた」「都道府県別の地図、白地図」となっています。また、岐阜県に関わる学習として、「海津市のドローン動画」も見ることができます。これらによって主体的に学びに向かうための意欲や関心を高める配慮がされています。

②「帝国書院」は、

- ・QRコードを読み込むと、600をこえるコンテンツが設けられています。その内容は主に、「地図クイズ」「地図のやくそくごと」「47都道府県地図」となっています。また、前述したもの以外にも、地図帳に載っている「各地域の産業の特徴」や「統計資料」、「アニメーション」や「関連する動画リンク」など様々なコンテンツを活用することができ、主体的に学びに向かうための意欲や関心だけでなく、さらなる探究心を高めるようよく配慮されています。
- ・また、2(3)「多様な学びを支援する教育の充実」の面では、

①「東京書籍」では

- ・自然、産業、貿易、日本の歴史、伝統文化など幅広いテーマの資料図・統計を20ページにわたり掲載し、学習テーマに沿って他の資料と比較・関連させながら学習できるような構成となっています。
- ・また、巻末でSDGsについて取り上げ、課題解決に向けて考えていくことを投げかけるような配慮がされています。

②「帝国書院」では

- ・自然、災害と防災、産業、貿易、日本の歴史など幅広いテーマの資料図・統計を22ページにわたって掲載し、学習テーマに沿ってまわりの資料と比較・関連させながら学習できる構成になっています。
 - ・また、SDGsについては、持続可能な社会の実現に向けた課題や取組を理解できるよう特設ページを設けるとともに、11か所にSDGsに関連する写真や資料も位置付けられ、子どもたちが学びを広げることができるようよく配慮されています。
- 以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは、委員の皆様、ご質問等はありませんでしょうか。お願いいたします。

【委員】

- ・美濃市の事情ですが、北海道の士幌町との交流をしています。岐阜県の地図を見た時は、両者、差はそんなになかったのですが、北海道の地図を見ますと、帝国書院の方が詳しく載っています。美濃市の子どもたちには帝国書院を使わせたいなあと思いました。
- ・帝国書院の方が、広く見渡す地図というものが入っている点が特徴かと感じました。発達段階に応じて使い分けるといふ風に考えればよいのでしょうか。

【答申者】

- ・各学年によって学習内容が異なりますので、それぞれの学習内容によって、ある県を取り上げた大きな地図を使った方がよい場合もあれば、広く見渡せる方がよい場合があります。それぞれ使い分けるとなると思います。

【委員】

- ・帝国書院の25・26ページにこの辺りの地域が出ていて、更に57・58ページにもこの辺りが出ています。ただ、美濃市はあるのですが、関市がないのは何故でしょうか。発達段階によって使い分けるといふことなのでしょう。

【答申者】

- ・関市がないのは気づきませんでしたが、子どもたちの発達段階によって、情報量が多いとなかなか読み込めなかったりします。簡単な地図で全体を捉える、その上で学習が進んだり、発達が進んだりしましたら、先程言われました57・58ページを更に使っていくという風になるのだと思います。

【委員】

- ・社会科の専門でない先生でも使いやすい、きちんと活用できるという視点で考えますと、帝国書院の地図帳は、すっきりとした情報量で地図帳の使い方や約束が書かれています。一つひとつを丁寧に取り上げていると思いました。
- ・ページ数を単純に比較すると30ページも差があります。比べた時に特徴的にどんな違いがあるのでしょうか。研究された感想をお願いしたいです。

【答申者】

- ・先程もあがっていましたが、最初の地図の約束、使い方のところで、帝国書院の方が見開きで取り扱っています。東京書籍は1ページの中に複数の情報が詰められている感じがあります。広く見渡す地図が帝国書院にはありますので、この辺りでもページ数が変わってきています。最後の巻末でもページ数に大きな差がないのですが、帝国書院は防災やSDG'sのページがあり、今の社会状況に沿った内容のペ

ージが多いと思います。

【委員】

- ・好きなところは、世界地図が出てきたあと、日本地図が出てくる点です。違いとしては、帝国書院には、県庁所在地が一番後ろの方の地図に出てきています。市の子どもたちは、県を知らない子が多いです。47都道府県をしっかりと覚えさせることが必要だと考えています。帝国書院は、県の境をはっきりと示し、県名のみ大きく記載しています。読み物ではないのですから、最初に県名をしっかりと覚えさせることができる点において、帝国書院はよいと思います。
- ・子どもたちが地図を見なくなっている状況があります。見やすさや興味をもてるかという視点で見ますと、帝国の方が興味をひくのではないかと思います。ポイントを絞って、見せたいものを見せるといった観点では、帝国の方が見やすいのではないかと感じます。郡上おどりが東京書籍にはあるので、魅力的ではありますが、見やすさを大切にしたら、やはり帝国書院かなと思います。

【司会】

- ・皆様の質問やご意見、または答申者の答申ということで考えますと、帝国書院を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

算数

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・算数科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区における算数科指導の課題は、数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成に弱さがあることです。
- ・これらの課題と関連がある
着眼点1 各教科及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性
着眼点2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・着眼点1 各教科及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性
とくに、かけ算、わり算に関わる演算決定に至るまでのテープ図、数直線図等を活用した演算決定の系統性及びテープ図、数直線図等の扱いについて
着眼点2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
とくに、教科書の示す単位時間の構成及び6年生「分数のかけ算」で分数をかける計算の扱いについて6者すべての調査結果を説明します。

(1)「東京書籍」は、

- ①演算決定の系統性については、3年生でテープ図と数直線を並べて表記し、4年生で2本の数直線の間にテープ図を入れて、2本の数直線へと移行しています。4年生下巻の巻末では、数直線図のかき方を示しています。
- ②単位時間の構成を「今日の問題—学習のめあて—考えるときの手がかり—大切な見方・考え方—学習のまとめ—練習問題」とし、単位時間のくぎりをマークで示しています。6年生単元「分数をかける計算を考えよう」(分数をかける計算)では演算決定の時間を位置づけ、キャラクターが自身の考えとして「数直線で演算決定できる」などと示しています。また、児童自身で学習をすすめられるよう復習や補充するページを示しています。

(2)「大日本図書」は、

- ①演算決定の系統性については、3年生でテープ図と数直線を並べて表記し、4年生でテープ図を数直線に置き換えて、2本の数直線へと移行しています。3年生巻末「ひらめきアイテムシール」では、図を使って場面を表現することが有効であると述べています。
- ②単位時間の構成「問題をつかもう—自分で考えよう—学び合おう—まとめよう—使ってみよう—ふりかえろう」をページ左端の帯で示しています。また、単位時間の区切りをマークで示しています。6年生単元「分数のかけ算」では演算決定の時間を位置づけ、キャラクターが他者の考え方として「数直線

で演算決定できる」などと示し、次時で「既習に基づき計算できる」とまとめています。また、児童自身で学習をすすめられるよう復習や補充するページを示しています。

(3)「学校図書」は、

- ①演算決定の系統性については、3年生でテープ図と数直線を並べて表記し、5年生から図や表と併せて2本の数直線へと移行しています。3年生下巻で、図を使って問題を考える時間を位置づけています。
- ②単位時間の構成を「最初の問題—めあて—学びを確かめる問題—まとめ—次の学びにつながる疑問」とし、単位時間のくぎりを左端の帯で示しています。6年生単元「分数どうしのかけ算の意味やしきたを考えよう」では、乗数が $1/3$ である計算の仕方を考える時間を位置づけるとともに、キャラクターが計算の仕方のヒントを話しています。乗数が $2/3$ である授業では、キャラクターが図や数直線をつかって計算の仕方を説明しています。

(4)「教育出版」は、

- ①演算決定の系統性については、3年生でテープ図と数直線を並べて表記し、3年生上巻の巻末以降は、2本の数直線へと移行しています。巻末の「まなびの手引き」として、3年生上巻で「線分図のかき方」を、3年生下巻・4年生上下巻で「数直線のかき方」を示しています。
- ②単位時間の構成を「問題をつかむ—自分の考えをもつ—話し合って深める—ふり返ってまとめる・比べてつなげる—広げて考える」とし、マークで示しています。6年生単元「分数のかけ算」では、乗数が $1/3$ である時間を位置づけ、キャラクターが自身の考え方として、「数直線を使って演算を決定できること」などを示しています。また、児童自身で学習をすすめられよう、数直線を使って場面を表現する方法を振り返らせています。

(5)「啓林館」は、

- ①演算決定の系統性については、4年生でテープ図と数直線を並べて表記。5年生「比例」から2本の数直線へと移行するとともに、関係図と併せて表記しています。4年生「割合」の単元で、関係図のかき方を扱っています。
- ②単位時間の構成を「どんな問題かな—自分で考えよう—みんなで話し合おう—たしかめよう・ふりかえろう」とし、教科書冒頭で示しています。6年生単元「分数×分数」では、乗数が $1/3$ である時間を位置づけ、キャラクターが自身の考え方として、数直線や関係図に基づき演算が決定できることを示しています。また、児童自身で学習をすすめられるよう、図のかき方を動画で確認できるようにしています。

(6)「日本文教出版」は、

- ①演算決定の系統性については、3年生でテープ図と数直線を並べて表記し、5年生「比例」から2本の数直線へと移行しています。3年生上巻の巻末では、図を使って考えるとわかりやすくなることありますと述べています。
- ②単位時間の構成を「どんな問題かな—考えよう—学び合おう—ふり返ろう」とし、教科書冒頭で示しています。6年生単元「分数のかけ算」では、乗数が $1/3$ である時間を位置づけ、キャラクターが自身の考え方として、「数直線をつかって演算を決定できること」「乗数が分数でも、整数と同様に式で表せる」ことを示しています。また、児童自身で学習を進められるよう、数直線を使って場面を表現する方法を振り返らせています。

- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成」に課題がある美濃地区については、「自立的・協働的」に問題解決できる学びが重要となります。
- ・よって、「東京書籍」と「大日本図書」の二者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いてこの2者を着眼点2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 から比較します。多くの児童がつまづきやすい「5年生 割合 とくに比の第2用法といわれる割合にあたる量を求める計算」について、比較した結果を説明します。

①「東京書籍」は、

280 mLある飲み物に20%含まれる果汁の量(比べられる量)を求める問題で、まず「もとにする量、比べられる量」が何かを考えさせます。同じページにある図の中には、全部の量として280 mL、比べられる量である果汁の割合が「全部の量の20%」と書きこまれています。次に、もとにする量、比べられる量の割合がかきこまれている数直線から、式と答えを考えさせます。同じページには式が示されています。練習問題では、120%にあたる量を求める問題が位置づいています。二次元コードからは、数直線のかき方を復習したり、授業で扱った問題を繰り返して練習したりできるようになっています。

児童が主体的・対話的に学習できるよう配慮されています。

②「大日本図書」は、

450 mLある飲み物に20%含まれる果汁の量(比べる量)を求める問題で、まず、「もとにする量、比べる量」が何かを考えさせます。次に「もとにする量、比べる量である果汁の割合」を数直線に書き込み、式と答えを考えさせます。次のページには、キャラクターが数直線と式、答えを話しており、このキャラクターの考え方を児童が読み取り、説明させようとしています。練習問題では、140%にあたる量を求める問題が位置づいており、数直線にもとにする量とその割合、比べる量とその割合を書き込むようにしています。また、復習するとよいページ、補充問題のページを示すとともに、二次元コードからは、数直線のかき方を復習できるようにしています。

児童が主体的・対話的に学習できるようよく配慮されています。

以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは、委員の皆様、ご質問等はありませんでしょうか。

【委員】

- ・数直線のことによく説明をしていただきました。東京書籍と大日本図書がよりよいことがよくわかりました。Xの取扱いの時期について2者に違いはあるのでしょうか。どちらが良いのでしょうか。

【答申者】

- ・文字が入ることで子どもたちが悩むことがあります。単元の配列の問題もあるかと思いますが、大日本の方がどちらかという後の方に扱っている傾向があります。東京書籍は、文字というだけでなく未知数として扱っているので感想ですが、やや子どもたちが迷う場面のあるかと思っています。

【委員】

- ・2次元コードについて2者の説明をもう少し詳しく教えてください。

【答申者】

- ・東京書籍のQRコードは1つは、授業の復習をするページへとんでいきました。もう1つは、授業で取り扱った練習問題を何度も繰り返し取り組むページといった作りこみがされていました。大日本図書は、数直線の書き方を振り返るようなページにとんでいきました。多くの場合、東京書籍は、学習を振り返りながら練習を繰り返す、大日本図書は、授業を復習しようとする作りこみが多いと調査しました。

【委員】

- ・分数をかけるといった6年生の授業について、どういう点の良さや違いがあるのでしょうか。もう一度聞きたいです。教科書は何ページを見るとよいのでしょうか。

【答申者】

- ・東京書籍は、6年生39ページ、大日本図書は、6年生の101ページです。
このふたつの発行者、演算を決定させる時間を位置づけます。そして、3分の2をかける式を扱っています。東京書籍はキャラクターが自身の考えを話します。大日本図書は、2人の登場人物が出てきて、互いに仲間の意見を説明します。これは大日本の特徴であります。授業においても仲間の意見を説明するという特徴は他の単元においても過分にあります。また、両発行者とも、2本の数直線で、演算しようとする特徴があると思います。

【委員】

- ・まず、2者を比較した時に字の大きさを見た時、大日本の方が字が大きいな、見やすいなと思いました。筆算の仕方は、大日本の方はとても丁寧だと感じました。東京書籍は、書き込みながら進める教科書の作りになっています。実際の授業において、それぞれ良さはあるとは思いますが、どちらが適していると思われませんか。

【答申者】

- ・字の大きさは、調査した際、ぱっと見た時の印象が大きいので、私たちの中でもそういった感想がありました。あとは、どうやって授業を行うか、どう教科書を使うかということも大切になってくると思います。これから若い先生方が増えてくると思いますと、教科書を見れば授業ができる丁寧な方が、若い先生方は助かるのではないかと、印象になってしまいますがそう思います。

【委員】

- ・算数の本質的な問題ではないですが、大日本図書の登場人物は、肌の色が多種多様。車いすに乗っている登場人物も一緒に学習している様子があります。東京書籍は、日本人の名前の登場人物ばかりでした。これからの時代を考えるとそういうところまで考えられていることが大事なのではないかと思います。
- ・分数÷分数のところを見ますと、大日本図書が101から、東京書籍51～52ですが、やはり、大日本図書は登場人物が多様な考えを話しているので色々な考え方を出させるという点では良いと思います。

【答申者】

- ・多くの場合、色々な考えを出させたり、他者の考えを説明したりしています。大日本の特徴として、他

の領域、例えば図形領域でも考え方を説明し合うなどこういったことが多くみられます。

【委員】

- ・ざっと単元を見ると、学習内容の変わり目が大日本の方がよくわかると思いました。大日本5年生の96ページ、東京書籍5上72～73ページといったところです。子どもたちが、この単元では、どういったことをやるかがよくわかるのではないかなと思いました。
- ・大日本の方は、どの学年にも黒板が出てきます。黒板の前で、色々な登場人物の意見が展開されています。これは非常に特徴的で、ICT教育全盛の時代に、昔ながらの授業スタイルであるきちんと発言する、きちんと関わっていくことも大切にしていこうとするメッセージが伝わってくる気がしています。子どもたちにとっては、導かれてしまっているのではないかというデメリットもあるかもしれませんが、この点は、先生にとっては使いやすいのではないかと思います。その辺りについて調査研究で何か意見ができましたでしょうか。

【答申者】

- ・教科書をどうやって使うか、使い手を考えなければならないと思います。2次元コードも上手く使いながら、教科書で学習していけるような実践を広げていかなければいけないと思います。

【委員】

- ・2者の6年生、分数と整数を比べて見ますと、例えば東京書籍33ページ、大日本33ページになっています。授業で取り扱う時には、だいたい1ページを見ながら問題設定をして、課題をつくって考えます。ある程度考えがまとまったら次のページへ進んでいくといったイメージがあるのですが、東京書籍を見ると、1ページ目にもう下に図が書いてあります。この図で考えましようと思われています。大日本は、何も書いてありません。思考力を伸ばすには、大日本図書の方かと思いました。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、大日本図書を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

外国語

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・外国語科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を意見書にまとめました。
- ・美濃地区における外国語科の指導において、児童の実態等からコミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、情報や考えなどを表現し伝え合うことに課題があり、今後より重点的に指導し、コミュニケーションの基礎となる資質・能力を育成する必要があります。また、令和2年度の小学校英語の教科化から「読むこと」「書くこと」の学習が加わったことを踏まえ、児童が学習に対して、過度な負担を感じることはないように配慮するとともに、児童が楽しみながら学習することが大切だと考えます。これらの課題と関連がある着眼点1の(1)「資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成」と着眼点1の(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

着眼点1の(1)については、「聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・書くこと」の4技能5領域の言語活動のバランスがとれており、特に「話すこと」の言語活動に必然性があり、児童が活動しやすい内容になっていること」を中心に、(3)については「児童が学習の見通しをもち、主体的・協働的に学習に取り組めること」を中心に、これらの着眼点について、6者全てについて説明します。

①「東京書籍」は、

- ・4技能5領域の言語活動がバランスをとりながらも学年によって軽重がつけられており、児童の発達段階に応じた配慮がされています。
- ・また各学年で、教科書が3つのパートに分けられ、それぞれにテーマが設定されています。パートの内容にまとまりがあるため、児童にとって学びを関連させやすい構成になっています。

②「開隆堂出版」は、

- ・冒頭で出口を見通せるリスニング活動があり、単元の出口に向けてターゲットとなる英語表現を使った活動が段階的に設定され、児童にとって無理のない構成となっています。
- ・また、「クラスのスペシャルカレンダーをつくろう」「マイ・タウンを作って案内しよう」など、言語活動の題材設定に特色があり、児童の興味・関心を喚起し、主体的に活動できるような話題が設定されています。

③「三省堂」は、

- ・4技能5領域の言語活動がバランスよく配列されています。Unitは、HOP・STEP・JUMPで構成されており、HOPで児童自らがゴールを設定し、STEPで小さなゴールを達成する経験を積み重ねながら、

Unit のゴールに向かって学びを進める設計になっています。

- ・「話すこと」の活動については、どんなことができるようになればよいか動画で複数パターン示されており、学習する際、児童にとってイメージしやすいものとなっています。

④「教育出版」は、

- ・年に2回ほど設定されている「Read and Act」では、児童の知っている物語が英語になっており、例えば国語科で劇を演じたことを思い出して英語でロールプレイができるよう設定されています。
- ・また、単元の前半に「聞く」活動を多く取り入れ、音声による豊富なインプットにより5領域の力が段階的に育めるよう配慮されています。

⑤「光村図書」は、

- ・4技能5領域の言語活動がバランスよく配列されています。各学年では、3つの大単元それぞれにテーマがあり、複数単元ごとにまとめの活動として、「世界の友達／You can do it!」が位置付けられており、それまで学習した表現を受容・発信する場面として設定されています。
- ・また、各単元で学ぶ表現を使って活動するだけでなく、既習表現の活用場面が随所に設定してあり、自分の考えや気持ちを豊かに伝えられるよう工夫がされています。

⑥「啓林館」は、

- ・中学校で学習する文法の配列に近い単元構成になっており、小学校・中学校ともに同様の流れで繰り返し学ぶことができるよう構成されています。
- ・また、友達とたずね合う活動では、QRコードを利用することで、英語に難しさを感じる児童も無理なく活動することができるように配慮されています。

以上、各発行者の特徴について説明しました。「コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて表現し伝え合うこと」や「児童が学習に過度な負担を感じることなく、楽しみながら学習できること」に課題がある美濃地区については、児童が「児童が見通しや目的意識をもち、必然性のある言語活動に楽しみながら主体的・協働的な学びができるようにすることが重要となります。

- ・よって、「東京書籍」と「光村図書」の二者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

続いて、この2者について先ほどの着眼点から比較します。着眼点1の(1)の特に「聞くこと・読むこと・話すこと(やりとり)・話すこと(発表)・書くこと」の4技能5領域の言語活動のバランスがとれており、特に「話すこと」の言語活動に必然性があり、児童が活動しやすい内容になっていることについて、比較した結果を説明します。

①「東京書籍」は、

5年生では「聞くこと」「話すこと」の領域の言語活動が多く設定されているのに対して、6年生では「読むこと」「書くこと」の領域の言語活動が多く設定されています。これは、5年生と6年生の単元の終末でゴール活動を行う **Enjoy communication** のページです。5年生は「活動の振り返り」で終了になっていますが、6年生ではさらに「会話したことを書こう」のコーナーが加わっています。これは、教科書全体としては5領域のバランスをとりながらも、児童の発達段階に応じて領域に軽重がつけられており、児童にとって学習が負担にならないよう配慮されています。また、話すことの言語活動の

必然性については、例えば5年生の Unit2 では「プレゼントカード渡して友達に喜んでもらう」というゴールに向け、最初に相手の誕生日を尋ね、次に欲しいものを尋ね、そしてカードを作って対話しながら渡すという順の活動になっており、児童の自然な思考の流れに沿うよう配慮されています。

②「光村図書」は、

「話すこと（やりとり・発表）」の領域の言語活動を中心に、4技能5領域の言語活動がバランスよく配置されています。大単元が3つあり、それぞれの大単元の中で5領域すべてを学習できるように設定されています。これは6年生の教科書の巻頭の目次のページです。単元ごとに重点化領域が設定されていることにより、児童は単元でどんなことができればよいのかが分かり、学習の目標を明確にできるように配慮されています。また、話すことの言語活動の必然性について、例えば6年生の Unit 4 では、「友達に、夏休みの思い出を伝える絵日記を書こう。」という活動が設定されています。児童が自身のことについて願いをもって伝えたいことを書き、発表できるよう構成されています。

次に着眼点1の(3)の「児童が学習の見通しをもち、主体的・協働的に学習に取り組めること」について比較した結果を説明します。

○「東京書籍」について

①学習の見通しをもつ という点では、

単元の初めに児童が **Watch and Think** を視聴し、登場人物の質問に答える形で自分が伝えたいことを考え、記入する **Your Plan** の欄があり、自分の願いや目標をもって学習がスタートできるよう配慮されています。

②主体的・協働的な学習 という点では

それまで学習してきた表現の確認や自分の考えや思いを伝え合う **Enjoy Communication** について、イラストなどでその方法が示されており、児童にとってイメージしやすく、主体的・協働的に活動できるように工夫されています。

また **Let's Try** などの仲間と尋ね合う活動の際は、集めた情報を教科書にメモする表が設けられており、自分のがんばりが目に見えるようになっていきます。そして、大単元の終末にある **Check Your Steps** では、マインドマップを使用して自分の考えを整理するよう設計されており、苦手意識をもつ児童にとっても活動に取り組みやすくなるよう配慮されています。

○「光村図書」について

①学習の見通しをもつ という点では、

単元の最初のページに、この単元で何ができるようになることがゴールなのかを示すとともに、「～のために」という学習の目的が明記されています。そして、**Hop, Step1, Step2, Jump!**という授業の流れの順とともに、それぞれの活動内容が明示され、児童にとって見通しをもって学習がスタートできるようになっています。また、単元の終末には、振り返りのコーナーが位置付けられ、その中で「工夫したことや次に生かしたいこと」を記入するようになっており、児童の意識を次回へつなげすいよう、よく配慮されています。

②主体的・協働的な学習 という点では

互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を充実させるために、**Let's Try** で対話活動を行った後に、

Plus One のコーナーが設けられています。児童が自分なりに既習表現を加えて、別の相手に伝えたり、さらに詳しく尋ねたりすることで、思考力・判断力・表現力を養い、会話を続ける力を育めるように設計されています。また、Unit のゴールには、既習表現を思い出すための Phrase Hunt のコーナーがあり、QR コードから見られる表現をヒントに、他に使えるような表現を探し、クラス全体で共有し、協働的な学びができるよう工夫されています。このように、児童が主体的・協働的に学習ができるようよく配慮されています。

以上が調査研究となります。

【司会】

・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

・教科書をぱっと見た時、東京書籍の方が書き込むスペースが多くあるような印象を受けました。小学校でつけたい力や大事にしたい活動を考えた時に、そういったところについてはどう考えられますか。

【答申者】

・おっしゃられる通り、調査研究をする中でも意見が出ました。その中で、いろいろな考え方があって思うのですが、メモして書いて置くことも自分自身の頑張った成果として目に見えるので安心ですし、そういうことを大事にしたいという考え方もあるのですが、対話を中心、言語活動として話すことを中心にしたいと思うと、表のような書きこむスペース、書く活動があるがために、そちらがおろそかになってしまう可能性があると考えました。そう考えますと、光村図書の方が配慮されていると感じました。

【委員】

・中学校へ入学前の小学生を英語嫌いにしないということが大切だと思っています。対話的で即時的な活動に慣れていくことを大切にしていこうと考えた時、どちらの教科書が適していると思われませんか。

【答申者】

・その点につきましては、2者ともそれぞれに工夫がなされていて、正直甲乙つけ難いと思いました。岐阜県、この美濃地区もそうですが、その場で考えると、即興性というものを非常に大切にしております。そう言った意味では、光村図書、東京書籍ともにそれぞれ工夫されており、その点においては、甲乙つけ難いと感じます。

【委員】

・2次元コードの扱いについて、2者もう少しご説明いただきたいです。

【答申者】

・お手元の資料に2次元コードの数や特色については、取り上げさせていただいております。違いは、東京書籍は別冊に2次元コードがある場合があります。そのほかについては、大きな違いはないかと思えます。

【委員】

・先程から話がありますが、東京書籍は随分書くことが多くて、せっかく英語でやり取りしながら、書くことにおいて急にまた日本語にもどってします。この当たりが学びが途切れてしまう気がしました。話す聞くを大切したいと考えますと、光村の方が実態やつけたい力に合っているのではないのでしょうか。

英語で始まり、英語で終わる光村の方が良いのではないかと思います。別冊についているカードや2次元コード、実際に有効であるかどうかお考えをお聞かせください。

【答申者】

- ・東京書籍に別冊があります。週2回の授業において、これだけの資料をどれだけ使えるだろう、使いこなせるのだろうかと検討もしました。光村には巻末にあります。別冊が無くても、十分教えられるのではないかと考えました。特にどうしてもなくてはならないというものではないという結論になりました。

【委員】

- ・あまりにも書き込みの量に差があります。県が目指しているところ、つけたい力を考えることが必要だと考えます。本質ではないかもしれませんが、色々な国の人との関わり、人種による肌の色や特徴なども明らかに光村図書の方が豊かであると感じました。答申の内容から見ても、国際感覚、多様性を考えるのも大切だと思います。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、光村図書を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

音楽

【答申者】

1 自己紹介

2 着眼点の説明

- ・音楽科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を33ページ以降の意見書にまとめました。まず初めに美濃地区における音楽科指導の課題について説明をいたします。

(課題)

- ・美濃地区の小学校において音楽科の授業は、音楽専科ではなく、担任が指導をしていることが多いことが現状です。そのため、教材曲を用いて何を指導するのか、児童にどんな力をつけるのか、また、どのような見方や考え方、感じ方を大切にしていける授業なのか、音楽という教科で何をどのように学び、力をつけていくのかがよりわかりやすいことが求められています。
- ・また、音楽はその教科の特性から、消えてなくなる音や音楽に着目することが必要であり、焦点的に音に着目していく力が重要です。しかしながら、焦点的に音と向き合うのではなく、その曲をいかに美しく演奏するかという技能面にばかり目が向きがちで、堂々と演奏表現することや自分の思いを伝えることに抵抗がある児童も多くみられるのが現状です。そこで、いかに系統的に音楽の見方・考え方・感じ方を習得していくことができるかが求められています。
- ・そこでこれらの美濃地区の課題との関連を意識し、
着眼点1—(2)「各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性・発展性」、
着眼点2—(2)「ICTを活用した学習活動の充実」の2点から説明をいたします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

音楽科では教科書発行者が「教育出版」と「教育芸術社」の2者のみですので、2者すべての調査結果から調査研究結果の比較を説明いたします。

4 調査研究結果の比較

- ・まず一つ目の着眼点1—(2)「各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性・発展性」について、比較した結果を説明いたします。
- ① 「教育出版」は、学習活動に応じた教材曲を用いて題材構成をしています。そのため、題材数が少なく、音楽を形作っている要素を複合的に捉えることができるように配列が工夫されています。
- ・教育出版3年生34ページをご覧ください。左上に「せんりつと音色」という題材名が書かれています。この題材では、弾んだ感じのユモレスクの曲想とバイオリンの音色とをかかわらせて鑑賞することができるよう、教材曲のねらいを旋律の「変化」としています。さらに、その次の教材曲「白鳥」ではなめらかな感じの曲想とチェロとピアノの音色とをかかわらせて鑑賞し、さらにユモレスクとの違いをはっきりさせるために旋律の「ながれ」をねらいとしています。このように一つの題材の中で、「旋律感」と「音色感」といった2つの音楽的感受性を主題としてとらえています。

続いて同じく3年生の題材「日本と世界の音楽」で説明いたします。前をご覧ください。

この題材では、日本のわらべうたや世界の民謡を並列していくつも取り上げ、その曲の違いやリズムのおもしろさなどに目が向くようにしています。また手遊び歌を取り入れることで、曲を楽しみながらそれぞれの国の音楽に親しむことができ、それとともに「拍感」にふれることができるようにしています。さらに題材の終末には、ラテン打楽器を取り入れた合奏を位置づけ、ラテンの「音色感」やリズムによって器楽奏をすることで「リズム感」にもふれることができるように工夫されています。

このように、日本や世界の音楽に親しむ中で「拍感」や「リズム感」、「音色感」といった3つの音楽的感受性を複合的に感じたりすることができるように工夫されています。

以上のことから、「教育出版」は着眼点1－(2)「各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性・発展性」について配慮されています。

② 一方「教育芸術社」は、何を学ぶのかが子供にも指導者にもわかりやすいよう系統的な主題による題材構成を主軸として学習が積み重ねられるよう、学びのつながりを意識して構成されています。

そのため、題材のねらいにせまり、1つの題材の中に歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の教材がバランスよく配置されており、さまざまな学習を通して音楽の力を身につけることができるよう工夫されています。

前をご覧ください。4年生の題材「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」では、「弾んだ感じ」と「なめらかな感じ」という2つの旋律の特徴から音楽的感受性のうち「旋律感」を養うことをねらいとしています。そのため、はじめは歌唱教材「ゆかいに歩けば」で、前半の「弾んだ感じ」と後半の「なめらかな感じ」の対比を歌唱で意識して、行います。次の教材「陽気な船長」では器楽奏においても前半の「弾んだ感じ」と後半の「なめらかな感じ」を意識し、器楽でも「弾んだ感じ」と「なめらかな感じ」を感じ取りながら演奏することのよさに気づくことができるようになっていきます。さらに次の鑑賞教材では、オーケストラやピアノなど一般化されても「弾んだ感じ」と「なめらかな感じ」という旋律の特徴を感じ取ることができるようになっていきます。

十分にその2つの旋律の特徴について学習したのち、次の題材「せんりつのもろもりを感じ取ろう」となっています。

ここでは、「弾んだ感じ」と「なめらかな感じ」を重ねるおもしろさを味わうことができるようになっていきます。また、それが5年生・6年生の題材「曲想の変化を感じ取ろう」や「音のもろもりを感じ取ろう」へと系統的につながっていくよう構成されています。

このように教育芸術社は、1つの題材にねらいがわかりやすい教材を複数用いることで、より焦点的に音楽的感受性を養うことができるようになっていきます。

以上のことから、「教育芸術社」は着眼点1－(2)「各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性・発展性」についてよく配慮されています。

続いて、この2者を着眼点2－(2)「ICTを活用した学習活動の充実」について、比較した結果を説明いたします。

① 「教育出版」は、

QRコードが各学年14個～24個掲載されており、題材に応じて活用できるようになっています。

特に、ワークシートを word、PDF の2つのパターンから選択し、指導者側から提示することができます。その際、PDF を選択すれば児童がタブレット上で書き込むこともできます。

- ・鑑賞教材ユモレスクでは、そのページの QR コードを読み込むと、プロ奏者による演奏動画を一曲通して聴くことができます。それとともに、楽譜に合わせて音符が点滅するよう工夫がされており、旋律を目で追うことができ、どこを演奏しているのかがわかりやすいため、題材のねらいである「旋律の変化」に目を向けることができるよう工夫されています。

以上のことから「教育出版」は、着眼点2—(2)「ICTを活用した学習活動の充実」について配慮されています。

② 一方「教育芸術社」は、

QR コードがどの学年も30個以上あり、全ての教材曲に掲載されています。また、その内容が一目でわかるよう種別ごとに「旋律を聴くことができるヘッドホンマーク」や「楽譜を動かしながら操作できる指マーク」など6つのマークに分けて示してあります。特に、一つのQRコードにマークが2つ以上併用されており、鑑賞する以外にタブレット上で児童が自由に譜面を操作することができる機能がついています。

- ・また3年生の「けんばんハーモニカ奏法」では、指くぐり指またぎの動画が収録されており、児童が一人で何度も繰り返し確認しながら指使いを練習することができるように工夫されています。
- ・同じく3年生の「せんりつづくり」ではタブレット上で音を選ぶと旋律を自動演奏してくれるため、演奏技能に不安がある児童も音楽づくりの学習を楽しむことができるよう工夫されています。

こういった、児童が自分で活用することのできる機能的なQRコードがどの学年にも掲載されており、多くのQRコードを鑑賞だけではなく、技能の習得、音楽づくりなど学習活動に沿って必要に応じて活用することができるようになっています。

このように「教育芸術社」は着眼点2—(2)「ICTを活用した学習活動の充実」についてよく配慮されています。

以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

- ・教育出版社のQRコードは児童のためのものですか。それとも先生が使うものですか。

【答申者】

- ・児童も使えるものです。PDFで端末に取り込んで使うことができます。

【委員】

- ・専門でない先生方、若い先生でも使いやすいものと考えるところでしょうか。

【答申者】

- ・美濃地区の課題としまして、音楽を専科としない担任が多くは指導していることが多いことを考えますと、教育芸術社を見ていただきますと、文章でやるのが細かく書かれています。パッと見るとたくさん字があって、書き過ぎではないかと思われるかもしれませんが、ここを見ればこの時間何をやっ

たらよいか、大変よく分かります。途中でも話しましたが、音楽を考えるとどうしても「いかに上手に歌うか」「上手に演奏するか」に頭が行きがちですが、子どもたちにとっては、社会に出た時にいかに音楽に関わっていくか、音楽を楽しめる子どもに育てていくことが大切だと考えます。それを考えますと、この曲ができることよりも、題材や特徴がきちんと理解できる力をつけることによって、将来社会に出た時に音楽を楽しめる子どもをつくらせようと考えます。

【委員】

- ・教育芸術社について、このことについて力をつけたいから、教材をこの様に配置しているということがよく分かりました。教育出版社は、音楽をこんな風を楽しみましょうという考えで作られています。1年生を見比べますと、特徴的な点としては、教育出版社には外国語の歌が載っています。教育芸術社には無いのですが、児童の発達段階に応じて配列されていることが理解できます。教育芸術社が良いのではないかと思います。
- ・先程教えていただいたように、こんな音楽の学び方や楽しみ方がわかる子たちが、将来音楽を楽しめる大人に育つのだと思いました。
- ・教育出版社の QR コードについては分かるのですが、教育芸術社の QR コードの説明をもう少し詳しく聞きたいですし、合唱指導において、パート別の音源などはあるかどうかを教えてほしいです。

【答申者】

- ・QR コードがついていて、目次のところにその内容が色々なマークを付けて分かるようになっていています。例えば、演奏について、鍵盤ハーモニカについての指使いについてその動作が何度も見られるようになっています。その子に合わせた学習ができるようになっていています。旋律については、残念ながら全ての曲が網羅されているわけではありません。ただ、その曲が歌える、歌えないだけではなく、低音、高音の音の重なりのおもしろさの学習になりますので、また、別の方法となると思います。

【委員】

- ・図工、音楽といった技が必要な教科の授業においては、タブレットを何度も見ながらスキルを上げている児童の姿を多く見るこことがある印象があり、非常に有効だと思います。今、ご説明いただいたような QR コードによって、繰り返し授業で見られることは素晴らしいことだと思います。
- ・著作権について、教育出版の方は、見つけられなかったのですが、教育芸術社の6年生には特集で位置づけられています。著作権について、音楽の先生の立場で話してもらえることは非常に大事なことで感じます。そういう点でも教育芸術社が良いと思います。
- ・音楽的ではないことですが、着眼点のふりさと教育という観点について考えますと、教育出版社の中には、地元の郡上踊りの写真が何枚も入っています。また、両方にこきりこ節が入っています。現在、郡上では民謡に力を入れており、講師の先生方を読んで民謡教室を行っているほどです。一市の意見ですが、非常に有難い内容です。教育芸術社の6年生「夏は来ぬ」という曲が載っているのですが、作詞をされている佐々木信綱さんのお孫さんに郡上市はずっと短歌の指導をしてもらっています。
- ・どの教科書にも「君が代」が載っています。教育芸術社は聞けるようになっていています。コロナで歌えない子どもたちが増えている状況がある中で、聞けるということは非常に有難いことです。

【司会】

- ・ご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、教育芸術社を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

思います。

(承認)

【司会】

・拍手多数で、この件は承認されました。

図工

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

・図画工作では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などにに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を36ページ以降の意見書にまとめました。

・美濃地区は、木材や和紙、円空仏等、豊かな自然や地域独自の文化素材に恵まれた環境に囲まれています。しかし、その立地から先進的な文化やデザインにふれたり、美術館に出かけ本物の作品に出合ったりすることが難しいという課題もあります。さらに、小規模校が多く、図画工作科の専門の免許をもつ教員が少ないという課題もあります。

そのため、教科書のなかでは、多様な美術作品に出合えたり、図画工作科の指導の重点や指導の方法が分かりやすく示されていたりすることが求められます。

また、岐阜県教育ビジョンに示されているように、ふるさと教育を大切にしながら、ICTを効果的に活用して、図画工作科の作品作りに役立てたり、多様な表現にふれたりする機会が提供できる教科書であることも求められています。

ここでは、これらの課題と関連がある着眼点1（1）、着眼点1（3）、着眼点2（2）着眼点3（2）の4点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

○着眼点1（1）「資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成」について、調査結果を述べます。2者ともに、すべての題材で「学習のめあて」が、この三つの柱から示されています。

・開隆堂では、それぞれ三つの柱をマスコット化してキャラクターが投げかけるように目標を示し、子供たちに親しみやすく伝えています。特に、重点目標は色を変えて焦点化し、分かりやすく示されています。

・日本文教出版社では、それぞれ三つの柱となる資質・能力を学習指導要領で改善された内容構成に即し5項目に細分化して示しています。5項目とは、表現に関する思考・判断・表現力と技能、学びに向かう力、共通事項に示された形や色にかかわる知識、イメージする思考・判断・表現力です。このことにより、児童自ら教科書を使って課題を見出し主体的に取り組む姿や、専門ではない先生においても題材で育みたい資質・能力が具体的に理解でき評価につなぐことが期待されます。

○着眼点1（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、調査結果を述べます。図画工作科では、造形や製作のプロセスで造形的な見方・考え方を働かせ、色や形などと豊かにかかわる資質・能力を育成することがより一層重視されています。このように表現と鑑賞を相互に関連させながら指導していくことが今回の学習指導要領改訂の主旨の一つとなっています。

・開隆堂では、表現と鑑賞の題材を連続で掲載し、関連を図りながら指導ができるように工夫されている傾向が見られます。具体的な事例を紹介します。お手元の教科書をご準備ください。開隆堂5・6年上の教科書、42ページから47ページをご覧ください。

ここでは「あったらいい町 どんな町」と児童が想像力をふくらませて自分の考えた町を絵に表す題材と、「わたしの町のひみつ教えます」と児童が想像した町を作品を鑑賞しながら交流する題材が配列してあります。次の「小さな美術館」というコーナーでは想像を広げながら美術作品を鑑賞する題材へとつないでいます。こうして、児童が主体的・対話的に学び、考えを深めていくことができるように工夫されています。

・日本文教出版社でも表現と鑑賞の題材を連続で掲載し相互に関連させることができるように工夫されています。具体的な事例を紹介します。お手元の教科書をご準備ください。日本文教出版社、3・4年下の教科書、40ページから43ページをご覧ください。

ここでは「光とかげからうまれる形」で材料や光の当て方を工夫しながら造形活動に取り組む題材と、「光から生まれる形・色」として、美術作品の光の効果を味わう題材を鑑賞します。左下の2次元コードからは、実際にゆらめく光と影の造形が動画で鑑賞できるようになっています。

このように、2者とも表現と鑑賞を相互に関連させながら、児童が主体的で対話的な学びを展開し考えを深めていくことができるよう工夫がされています。

○着眼点2(2)「ICTを活用した学習活動の充実」について、調査した結果を述べます。

・2者とも児童がICTを活用しながら学び進めることができるように、2次元コードを位置づけ、多様なコンテンツが備えられています。

・開隆堂では、1年生から6年生まで「タブレット端末を使おう」というコーナーを位置づけています。実際の教科書をご覧ください。開隆堂1、2年上の63ページをご覧ください。

低学年から図画工作科におけるタブレットの有効な学び方や注意点、発達段階に応じた能力が具体的に示され、系統的に指導できるよう工夫されています。

また、「タブレット端末で見てみよう」というコーナーを各題材に位置づけており、題材導入の動画や材料・用具の使い方等、指導者向けのプリントまで、充実しています。このことで、専門でない指導者も教材づくりで困らないように配慮されています。

・日本文教出版社でも同様に、題材導入の動画や材料・用具の使い方等のコンテンツが充実しています。特に、美術作品や作家のインタビュー等、動画での作家の制作風景や作品紹介があります。実際の教科書で事例を示します。

日本文教出版社5、6年下の裏表紙をご覧ください。

ここでは小学校図画工作科の最後に生活や社会のなかのアートの役割を学ぶことができるページとなっています。インタビューの2次元コードを読み取ると映像が出てきて、作家がどのような願いで表現活動をしているのか、文字や写真だけでなく、より鮮明に伝わってきます。美術館へ出かけたり作家に出合ったりする機会を提供するのは難しい地域性でも映像をとおして本物の美術にふれる機会が提供できます。

○着眼点3（2）レイアウトについて、調査結果を述べます。

・開隆堂は、学びあう児童の姿をクローズアップしたレイアウトになっている傾向が強く見られます。具体的な事例を示します。お手元の教科書、開隆堂1、2年下の8ページをご覧ください。

ここでは「すきなものなあに」と児童同士で対話している姿が大きく取り上げられています。開隆堂は、このような対話をする児童の姿が意図的に配置され、親しみやすく児童間の対話を促すような効果が期待されます。

・日本文教出版社では、素材や作品が数多く紹介されたレイアウトになっている傾向が強く見られます。具体的な事例を紹介します。お手元の教科書 日本文教出版社5、6年下の18、19ページをご覧ください。

ここでは、墨と水の分量、筆のタッチによって、多様な墨の表現ができる楽しさや製作のプロセスが分かりやすく示されています。このような製作のプロセスや表現の多様性が示されていることによって、これを手掛かりに児童自ら表現を工夫していく効果が期待されます。また、指導者にとっても表現の工夫が具体的に理解でき、資料づくり等に役立てることができると考えます。

・以上、各発行者の特徴について説明しました。

4 調査研究結果の比較

最後に、調査研究結果から2者を4つの着眼点から比較します。

着眼点1（1）において、開隆堂は配慮されています。日本文教出版社は、よく配慮されています。

着眼点1（3）において、2者ともによく配慮されています。

着眼点2（2）において、2者ともによく配慮されています。

着眼点3（2）において、開隆堂は配慮されています。日本文教出版社は、よく配慮されています。

以上をまとめると、開隆堂が4つの着眼点のうち、2つでよく配慮されており、日本文教出版社が4つの着眼点のうち、4つでよく配慮されています。

以上が調査研究結果となります。

【司会】

・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

・子どもたちの写真や表情、中にはマスクの写真が多かったのですが、日本文教出版の方は、裏表紙に「授業で学んでいるところを大切に写真に掲載します」というお断りがあり、実際の授業の場面で子どもたちの活動の様子が掲載されていて良いと思いました。

・日本文教出版の5、6年生下59ページに、美濃和紙が載っている。美濃地区の特徴である和紙をこれだけ1ページを使って掲載している点は、非常に良いと感じます。

・日本文教出版の教科書は、先程お話されたように「こんな技法が使えるよ」がどの学年にもたくさんあります。子どもたちが「こんなことで表現したい」そんな時はどうすれば良いかが大きなヒントになると思います。図工の専門でない教師にとっても非常に助かりますし、もちろん子どもたちにとって良い

内容だと思えます。

- ・答申の中で、美濃地区の子どもたちは、美術館等が近くにないため、一流の作品に触れることが少ないと言われていました。そういう点だけで比べると、日本文教出版よりも開隆堂の方が掲載されている作品数が多いのですが、そのあたりはどうとらえますか。

【答申者】

- ・本物の作品に触れるという点で申し上げますと、単独で鑑賞を扱っている題材が、開隆堂が6学年で各1つずつで6つ。日本文教出版は各学年で2～3つで合わせると16題材掲載しています。美術作品に触れるという点では、日本文教出版で提供されている題材数が多いと言えます。とは言え指導者が子ども実態に応じて、例えば関市であれば篠田桃紅の作品を授業で扱うなど、工夫して本物の作品に出合えるようにしていくことが大変意味のあることだと考えます。

【委員】

- ・5, 6年生上の一番後ろのページにチームラボの作品が載っています。最近芸術関係の大学の作品を見ますとデジタル関係の作品が非常に多いです。デジタル関係の教材について差はあるのでしょうか。

【答申者】

- ・先程紹介しました、日本文教出版の「光と影」の表現と鑑賞を一体的に扱う事例を紹介したのですが、これがまさにデジタルアートです。QRコードで本物の作品を見られる。デジタルに関連して申し上げますと開隆堂はICTを活用して、指導者が使いやすい色々な教材を手に入れることができます。それぞれの教科書会社の良さがあり、どちらがということをお申し上げ難いところがあります。

【委員】

- ・音楽と同じような質問になるのですが、色んな表現の仕方をタブレットを活用し、動画で繰り返し見られるようなものがあると非常に便利だと思います。そういう点において2者の差はあるのでしょうか。

【答申者】

- ・材料、用具の使い方で話すと分かりやすいと思います。子どもたちが表現でつまづいた時にタブレットを使って技術的な部分が支援できる動画は、開隆堂も日本文教出版も全ての題材においてどちらにもあり、2者ともよくできていると思います。調査研究の中で話題になったのは、掲載の仕方についてです。日本文教出版は、見開きで広く見やすいのに対して、開隆堂は半ページずつで掲載しています。ページの使い方の違いはあったと感じました。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、日本文教出版を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思えます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

令和5年度 第2回美濃地区教科用図書採択協議会議事録(2日目)

- | | | |
|------|---------------------------|--------------|
| ・日 時 | 令和5年7月18日(火) | 9:35 ~ 13:45 |
| ・場 所 | 関市役所 6階 6-2会議室、答申者控室(6-1) | |
| ・出席者 | 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会委員 事務局 | |

保健体育

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

・体育科では学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、全ての着眼点について調査研究を行いました。

(課題)「児童が心身の健康保持増進について、探求的に学習する力がやや弱く、健康の保持増進について、どのように生活を送り、改善するとよいのかといった主体的に心身の健康の保持増進に努めようとする態度が十分身に付いてない」という現状が挙げられます。

・これらの課題と関連のある着眼点1(3)、着眼点2(2)の2点から説明します。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

・着眼点1(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

・着眼点2(1)「ICTを活用した学習活動の充実」について、6者全ての調査結果を説明します。

① 「東京書籍」は、

・指導過程は4つステップで構成されています。ステップ1「気づく・見つける」では、写真等から課題を把握し「何を学ぶのか」をつかめるようにしています。

・教科横断的で深い学びとなるよう、他教科と関連した表記がされています。

・デジタルコンテンツは延べ93が掲載されており、動画やシミュレーションなど児童の健康保持増進への関心の高まる内容となっています。

② 「大日本図書」は、

・指導過程は5つの指導過程で構成されています。「つかもう」では、イラストや資料から課題を見つけ、本時「何を学ぶのか」がわかりやすい表記されています。

・「話し合おう」では児童間で考えを練りあい、思考が深まるように、「調べよう」では資料を足がかりに調べるように構成されています。

・デジタルコンテンツの利活用では、二次元コードは、見開き左ページ右側上段に固定されており、児童が混乱しないよう配慮されています。

③ 「大修館書店」は、

・単元冒頭に学習内容と関連した著名人写真とインタビューを掲載し、児童の興味関心を高めています。

・また、学習内容を補充したり、知識を広げたりする読み物や資料を掲載することで児童の理解を深め

ています。

・デジタルコンテンツは、実際の場면을想起した振り返りの活動や、毎時間のクイズコンテンツで判断力を育成する内容になっています。

④ 「文教社」は、

・単元末に「わたしの〇〇せん言」掲載し、学習内容を実生活に生かす工夫がされています。

・また、単位時間の学習の見通しのもてるめあてと指導過程が掲載されており児童が見通しをもって学ぶことが出来るようになっています。

・デジタルコンテンツでは、動画を視聴してから話し合う活動ができ、児童の対話的な学びを深めていける内容になっています。

⑤ 「光文書籍」は、

・「見つけよう」では、自己の生活をもとに、課題につなげています。

・「話し合い」や「調べよう」で課題を追求する学習過程にしています。

・デジタルコンテンツは、「デジタル」という表記で、学習の流れに合わせて効果的に資料が閲覧できるような工夫がしてあります。

⑥ 「学研」は、

・単位時間の指導過程が毎時間、左上に明記されています。

・思考を深めるために、自分の考えを教科書に書き込んだり、交流したりして対話的な学習となるようにしています。

・デジタルコンテンツでは、学習を補充するための外部リンク、ワークシートや学研サイトの資料につながる二次元コードが掲載されています。

・以上、各発行者の特徴について説明しました。「主体的に学びに向かう力」に課題がある美濃地区については、児童が「自ら課題を見出し、学習の主体者となって、生涯にわたり、心身の健康の保持増進に努めるようとする態度を育成する」学びができるようにすることが重要となります。

・よって、「東京書籍」と「光文書院」の二者が、より実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

・続いて、この2者を着眼点1（3）から比較します。「主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善の工夫」について、単元全般、6年生「病気の予防」、5年生「けがの防止」、4年生「体の発育と健康」の各単元から比較した結果を説明します。

①「東京書籍」は、

・単元全般における指導過程は、1ページ1ステップで4ページ4ステップ構成となっています。その具体を6年生「病気の予防」から見ていきます。単元巻頭において、単元の目標、指導の流れが掲載されており、単元の中で「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」がわかりやすくなっています。また、写真やイラストを掲載し、実生活を振り返らせるなどして課題化につなげる工夫がされています。

・次に主体的な学びにつながる単位時間における指導過程の具体を5年生「けがの防止」から見ていきます。

・ステップ1「気づく・見つける」では、写真やイラストから気づいたことをメモ欄に記述するよう工夫され、課題化につなげています。

・ステップ2「調べる・解決する」では、思考・追求の手がかりとなる資料や情報を掲載し、課題追求できるようになっています。

・ステップ3「深める・伝える」では、思考を深めるための記述活動と仲間との交流が図られるようになっています。

・ステップ4「まとめる・生かす」では、本時の学びを知識として問う振り返り問題が掲載されています。

・主体的な学びと深く関わっているデジタルコンテンツの利活用について、ステップごとに二次元コードが掲載され、4年生「体の発育と健康」では、必要に応じて容易に検索できるようにしています。

・こうした活動を通して、児童自らが学習の主体者となり、質の高い学びを実現していくという点でよく配慮されています。

②「光文書院」では、

・単元全般における指導過程は、見開き2ページ5段階構成となっています。その具体を6年生「病気の予防」から見ていきます。単元巻頭において、実生活を想起させる4コマ漫画を掲載し、単元の中で「何を学ぶのか」をつかませています。

・次に主体的な学びにつながる単位時間における指導過程の具体を5年生「けがの防止」から見ていきます。

・「見つけよう」では、実体験と関係したイラストを基に、気づいたことを振り返るよう工夫され、課題化につなげています。

・課題提示の後、「調べよう」では、思考・追求の手がかりとなる資料や情報を掲載し、課題追求できるようにしています。

・「やってみよう」では、二次元コードから応急処置の動画を検索による学びの場が設定されています。

・「生かす」では、本時の学びを基に、実生活の場で「どのように行動するか」を確認する記述欄が掲載されています。

・主体的な学びと深く関わっているデジタルコンテンツの利活用について、4年生「体の発育と健康」では、二次元コードが掲載され、アクセスすると内容を検索できるようにしています。

・こうした活動を通して、児童自らが学習の主体者となり、質の高い学びを実現していくという点で配慮されています。

・以上の結果から「東京書籍」がよく配慮されていると考えます。

以上が調査研究となります。

【司会】

・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

・最近、性の多様性という言葉が話題になっていて、私たちも配慮していかなければならないと感じています。2者について違いはあるのでしょうか。

【答申者】

・各者その点については工夫がされています。光文書院ですと、先程も資料にありましたが、例えばこういった体の発達に関わる場所では、性差をきちんと分かるように表示していたり、学研の教科書なども多様性ということで、中には異国の子どもたちのイラストが掲載されていたりします。教科書会社に

よって工夫がされているところです。

【委員】

- ・私が他者のものから見つけられなかっただけかもしれませんが、東京書籍の38ページには、性と自分らしさということで、色々な性のものさしや考え方があります。自分らしさっていう最近のものが取り上げられているのかなあと思いました。
- ・特に保健で、コロナをどう扱っているか一番大きな関心でした。両者とも扱っていますが、東京書籍は49ページいちばん最初のページに載っています。光文書院には載っていません。新型コロナという特設のページも東京書籍の方が詳しく載っています。感染症から身を守るといこととコロナは同じことなのですが、今の子どもたちは3年間コロナを経験しており、そういう意味ではコロナをしっかり扱っているのはなかなかいいなと思います。
- ・今の子どもたちは、親や学校もケガや病気に対して過剰に守ってしまって、子どもたちに失敗をさせないという傾向があるように思います。最終的には自分で自分の命を守る、健康を守ることが大切になります。そういった意味で実生活につながるということはすごく大切、ポイントになると思います。東京書籍において、そのような表現があったのもう少し教えていただきたいですし、その点でもし大きな違いがあればお話しいただきたい。

【答申者】

- ・東京書籍5、6年生の27ページに、交通事故の防止というページがあります。この様に場面を表記することで、ここからどの様に自分の命を守っていくのか、子どもたちなりに考えられるような投げかけがされています。東京書籍については、交通事故のページに限らず、単元の巻頭等でこういった写真を必ず掲載しています。投げかけて想起させるようにしています。その点、光文書院の方は26ページに交通事故の防止という同じ単元があるのですが、非常に小さな絵柄だけで表記されていて、ここから課題を見つけようとする。この点に大きな差があるかと感じております。自分たちの置かれている状況からどの様に生活するとよいのか、どの様なことに気をつけて自分の命を守っていくのかということを考えさせていくことが保健の指導にとって大切なことだと思われる。よりその点では東京書籍が配慮されていると感じます。

【委員】

- ・保健で扱う内容として、体の健康も大切だが、心の健康も留意されると思います。5年生に、不安や悩みがあるときという単元名がついています。この辺りで、東京書籍は書き込みながら自分を振り返るといった活動ができる工夫があります。この辺りで何か検討されましたでしょうか。

【答申者】

- ・各単元について、今、おっしゃられたところについても着眼点として、検討しました。先程もありましたが、東京書籍は写真等の掲載によって、おそらく課題化につなげるために、子どもたちに投げかけをしつつ、交流をしながら課題化につなげていくという流れが想像されます。同じページですが、光文書院は14ページ。これを見ますと、流れ的に少し掴みにくい気がします。内容については、グラフ資料であったり、交流のものが実際あったり、イラストが記載されていたりするのですが、そこから主体的な学びにややなっていないなと感じましたので、東京書籍の方がより指導する際、主体的に学びにつながるのではないかと思います。

【委員】

- ・今、心の健康のところでは気になったのですが、全体的に取り扱っている内容は変わらないですが、相談窓口などについての情報は、東京書籍の方が多く載っています。2次元コードについては、光文書院は一元管理されていると言われましたが、色々探していくより直接入れた方が、児童が自由に扱えた方がいいのではないかと思います。全体的に東京書籍の方が整理されているかなと思いました。
- ・昔は先生がビデオなどを見せていましたが、今は、タブレットがあるので自分で見られます。東京書籍は2次元コードの数が93あると言われましたが、光文書院はどの位あるのでしょうか。

【答申者】

- ・他者に比べて東京書籍が圧倒的に多いです。小單元ごとにデジタルコンテンツが記載されており、必要に応じて子どもたちが主体的に検索できるような授業の流れになっています。光文書院の場合は、一元管理なので2次元コードから入っていくのですが、更に検索をかけていかなければならないため、扱いのなれていない場合は分かりにくいかなと思います。

【司会】

- ・ありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、東京書籍を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

家庭科

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

・家庭科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を ページにまとめました。

・家庭科は、今日の多様な家族観を支える重要な学びです。現在でも様々な家庭実態がある中、どの家庭も否定せず、どの子にも生きる力を身につけさせる教科で、生活にかかわる技能を学ぶことのみならず、子どもたちの将来の家族観、家庭観、社会とのかかわり方に影響が及ぶ学びです。美濃地区では、若手教員や免外教員が指導したり、複式AB方式で指導したりしている実態があります。

3 調査研究結果の比較

・教科の学びのとりえについて関連がある着眼点1から比較した結果を説明します。

「東京書籍」は、資質・能力をバランスよく育むために、家庭科の学びを「生活をかえる」ととりえ、題材数を5年8題材、6年7題材として構成し、系統的な学習を行うことができるように配慮されています。

東京書籍の表紙見開きをご覧ください。「生活をよりよく変えていく」という記述があります。題材はこのように配列され、5年生から6年生へと順番に学習する道筋が示されています。

「開隆堂」は、資質・能力をバランスよく育むために、家庭科の学びを「見方、考え方をかえる」ととりえ、題材数を5年11題材、6年9題材として構成し、学校の実態に応じて学習の順序を入れ替えて学習することができるように、よく配慮されています。

開隆堂の表紙見開きをご覧ください。「ものの見方・考え方を広げてさらに成長」「学んで変わる」という記述があります。子どもたちの将来の家族観、家庭観、社会とのかかわりに広がります。

また、題材の配置に関して、「地域や学校によって違うこともあります」と記載があり、学習の順序等は学校や地域によって変えられるようになっており、複式の学校にも対応できるようによく配慮されています。

また、「東京書籍」は、題材を通して3つのステップで学習を位置づけ、学びを深めるための資料として、「生活に生かそう」のステップで問題解決的な学習を展開する構成となるよう、配慮されています。

「開隆堂」は、題材を通して3つのステップで学習を位置づけ、学びを深めるための学習内容として多様な家族観に対する理解を深めることができるよう、よく配慮されています。

例えば学習指導要領の「A領域 家族と家庭生活」にかかわる題材で比較しますと、東京書籍は「気持ちつながる家族の時間」という題材を設定しています。「家族」「わが家」という表現が多く、A領域の学習内容習得のための手立てが工夫されています。

開隆堂の同題材は「いっしょにほっとタイム」という題材です。家族や親しい人たちとの団らんについては同様な記述ですが、見出しや題材名にはそうした家族、わが家という文言が少なく、使用されている

写真やイラストにも様々な年代や国籍の人々が登場するなど、多様な家族観を育むための手立てがよく工夫されています。

・このような写真やイラストは、特に免外の教員や若手教員による授業の導入場面には大きく影響します。

東京書籍の「あなたは家庭や地域の宝物」の題材をご覧ください。学習のステップ1、生活を見つめる場面で、イラストから課題を見つけやすく工夫されています。

同じ題材の開隆堂、「共に生きる地域での生活」をご覧ください。人物が具体的で何をしているかわかりやすいので児童がイメージしやすく、発問も掲載されていることから、授業者が展開しやすい工夫がよくされています。

・様々な学校実態や教科担任の実態に合わせた指導に関連がある、着眼点3について説明します。

「東京書籍」は、ユニバーサルデザインに配慮したフォント、色使い、紙面構成となっています。

「開隆堂」は、ユニバーサルデザインに配慮したフォント、色使い、紙面構成で、一つの単語が複数行に渡らないよう工夫されており、図版は見開きページに実習の手順等が横流れにレイアウトされています。

米飯の調理について2者を見比べてください。東京書籍のレイアウトは、手順が横流れに掲載されています。開隆堂のレイアウトは、手順が横流れになっていることに加え、色使いで誰もが迷わず、児童の目線からの写真や使用する道具も掲載されています。

・使用上の便宜について、開隆堂の教科書裏表紙をご覧ください。

調理の基本技能とメジャーが掲載され、作業中での確認が容易です。また、巻末に栄養素の働きによる食品の分類のページが折りたたまれており、教科書のお他ページを見ながら資料を活用するなど、工夫がされています。

以上が調査研究となります。

【司会】

・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

・大変分かりやすく目から鱗でした。特に家庭を離れて施設で生活する児童生徒にとって家族団欒といった言葉の使い方ひとつとっても開隆堂の教科書の方が、どの様な子どもたちにとっても扱いやすいのだということが分かりました。

・今のご意見同様、今日的に様々な家庭形態があると思います。必ずご両親がそろっているということではありません。あるいは、生活も家族それぞれ、そういう中で家族はいったいなんだろうという固定概念が無く、非常に現在の社会状況にあっていると思います。また、厚みが明らかに違います。なぜ違うのか見てみますと、開隆堂の方が、地域によって味付けが違うなど、ただ知識や技能だけでなく地域性

の違いを紹介していますし、左利きにしても工夫がなされています。結果的に非常に細かく丁寧なつくりになっているのかなと思います。

- ・専門外や若い先生方が指導する機会が多くなってきており、開隆堂の方が活動も具体的に出されていますし、授業者が授業しやすいのではないかと感じました。学ぶ立場から見ても、子どもが様々な特性を持っている中で、見やすくイメージしやすいつくりになっているので、児童生徒が学びやすい教科書になっているのではないかと思います。
- ・2者のコンセプトが少し違うなあと感じました。開隆堂は、他教科との関わりを意識させるようなページがあるように思います。
- ・先程説明された、栄養素の見開きの工夫について、こんなところまで配慮されているのだと驚きました。他の教科でもICTに関わって、デジタルコンテンツのことが話題になっていたのですが、今回の2者のデジタルコンテンツの比較については、何かありますでしょうか。

【答申者】

- ・デジタルコンテンツの数自体は、それほど変わりはありません。どの様に授業中に使うか、どういう場面に使うかによると思うので一長一短あると思いますが、少し東京書籍の方が長めで詳しい、コンテンツの一つひとつが開隆堂の方が少し短めの印象があります。また、ほぼ全てのページに2次元コードが配置されています。先程、左利きの話もありましたが、東京書籍も左利きの動画がはいっています。自分で学びを進めることも2者どちらも可能であると考えます。

【委員】

- ・今日的な課題として、私たちの生活においてSDG'sについてよく言われています。2者は持続可能な社会をどの様に扱って、どの様な差があるのか教えてください。

【答申者】

- ・前回の学習指導要領の改訂の時から、家庭科の指導内容項目には「身近な消費生活と環境」という領域の題材の中にはっきりと「持続可能な社会へ」というものが直接的に扱われています。環境などの視点に導くような2次元コードがあり、この題材ではこの視点を大事にしますよという所に環境の視点が入っています。2者とも4つの視点が載っているのですが、違いとしては、先程申しましたA領域を、東書籍は協力という視点で切り取っていますし、開隆堂は4つとも視点が大事だという風に切り取っています。2者の見方は違うと感じました。

【委員】

- ・専門ではない者が授業をする際、調理なり裁縫なりの技能面を考えていきたい場面では、印象ですが、開隆堂の方がレイアウトなど見やすい気がしましたが、その辺りはどうでしょうか。

【答申者】

- ・先程の比較した米飯のところもそうですが、ほかの裁縫の場面とか色々と作業をする場面は横並びレイアウトは何となく同じになっています。ただ、少し視覚的に集中できないようなお子さんに関しては、開隆堂は色でいざなう、余白が十分考慮してあるような感じを受けました。レイアウトが横並びで工夫がされているのは2者との工夫がされています。

【委員】

- ・先程、題材の数と開隆堂は並びを変えられるという話がありましたが、変えられる意図はどういったことでしょうか。

【答申者】

- ・複式学級等で5，6年生と一緒に進めていかなければならない時に、入れ替えが可能だということです。また、東京書籍の題材数の少ない理由は、家族と家庭生活の中に食の領域を入れ込んでいます。例えば「家族のことを考えてお茶を入れるようになりますよ」というような題材に合体をしています。例外や交換で教科担任を交換しているような場合は、2時間続きのような授業を組むことができなかつたりするのではないのでしょうか。短い題材で散りばめてあった方が、学級担任以外の先生が対応しやすいかなと思います。

【委員】

- ・説得力のある内容で、私も個人的に開隆堂がいいなと思っています。キャリアインタビューという内容が巻末にあり、一方の東京書籍もプロに聞くというものがあります。圧倒的に人数も内容も開隆堂が優れていて、この点だけでもこちらの方がいいと思います。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、開隆堂を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

生活

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

・生活科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を48ページ以降の意見書にまとめました。

・美濃地区における生活科指導の課題は、2つ挙げられます。

一つ目は、生活科の活動や学びを通して「自分自身の変容や、成長の気付き」に弱さがあることです。そのため、活動から気付きを生み、それを生かそうとする学びを支える環境構成を工夫しています。例えば、材料道具コーナーやお試しコーナー、気付きに繋がる意図的な掲示、グループ構成などです。これらは、学習指導要領がめざす「学びに向かう力や、人間性等の涵養」につながるものと捉えており、今後も継続して指導する必要があります。

二つ目は、学習の基盤となる「仲間とのかかわり方」に弱さがあることです。これは一つ目の課題である「気付き」にも大変関連するのですが、児童自身が感じ、考え、行動し、獲得した気付きを仲間に伝えることで、学びを自覚することに繋がります。また、無自覚な気付きを自覚させるための教師の的確な働きかけとともに、適切な自己評価や相互評価、さらに獲得されてきたものが視覚化され、児童自身が自覚できることが大切です。そのため、学習過程の中に中間交流会やアドバイスタイム、振り返りの場などを位置付けています。このように仲間とのかかわり合いながら学ぶことは学習指導要領がめざす「思考力・判断力・表現力」を高めることにつながるものですが、自分の成長への気付きに結びつくような仲間とのかかわりはまだ十分ではありません。

・これらの課題と関連がある着眼点1（3）、着眼点2（3）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

・着眼点1（3）「主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善」、
着眼点2（3）「多様な学びを支援する教育の充実」について、7者すべての調査結果を説明します。

①「東京書籍」についてです。

「自分自身の変容や成長の気付き」については、下巻P14・15の下の部分にある「学びをふかめる」コーナーの言語活動を通して気付きを関連付けたり、視点を捉え直したりするなど、気付きの質が高まる姿を具体化し、深い学びの過程を例示しています。また、板書のイラストでは、思考ツールを使って伝えたいことを整理する方法を示しています。小見出しの前にその小単元で身に付けさせたい資質・能力が分かりやすくマークで示され、教師側にとっては指導と評価の一体化がより明瞭になっています。

「仲間とのかかわり方」では、幼児期の学びから、生活科への学び、そして中学年の社会や理科へと系統的に広がっていくことを意識させる配慮があります。また、インクルーシブ教育の視点からも、多様な他者と協働する活動を随所に掲載しています。

②「大日本図書」についてです。

「自分自身の変容や成長の気付き」では、上巻P10・11のように各学年のスタート時に「やってみよう生活科」を位置付け、生活科の学びを示す中で、低学年なりに探求プロセスを分かりやすく示しています。また、キャラクターや教師の言葉かけを示し、児童自身が考え、気付きの質を高めることができるように工夫しています。

「仲間とのかかわり方」では、上巻P123にあるような仲間と伝え合うとよい「きらきらことば」や上巻P38にあるような「せいかつことば」が紹介されています。また、仲間との伝え合い、クラスでの話し合いの場を繰り返し取り上げ、個人の学びを集団で共有し、深め合うことができるよう工夫されています。

③「学校図書」についてです。

「自分自身の変容や成長の気付き」では、自分の思いや願いを明確にすることで、活動への必然性をもち、子ども自身が自己決定する場を大切にしています。上巻P34・35の「ものしりのうと」のページで「見る」「さわる」「たとえる」「くらべる」「よそうする」という対象に働きかけるポイントを示しており、キャラクターが具体的な言葉を発することで、子どもの思考を促すように工夫されています。

「仲間とのかかわり方」では、試行・改良を繰り返し行う場面の写真や子ども同士の学び合い、伝え合いのイラストを用いて、活動をイメージできるようにしています。また、上巻P37にあるような自分とのかかわりを大切にした「はっけんカード」では、対象物をよく見て観察し、表現するだけでなく、対象物と自分を一緒にかいているものや、自分の気持ちや願いが込められたものを示していることも特徴です。また、下巻P75にあるような単元の最後に「もっと〇〇したい」を設けてあり、さらなる活動を考えることで、自身の生活につながるように構成しています。

④「教育出版」についてです。

「自分自身の変容や成長の気付き」については、上巻P71にあるような教科書を貫く「はっけんロード」で主体的・対話的で深い学びへの指導ができるようになっています。この「はっけんロード」をたどることで、活動の流れが分かりやすくなっています。また、上巻P29にあるような「めくりページ」にヒントコーナーがあり、どのようなことに気付くとよいかということが示してあり、身に付けるべき気付きの観点が明確になっています。上巻P41には、単元の導入時の「わくわくスイッチ」で、子どもの多様な思いや願いを言葉にしてみんなで動機づけを共有できるようにしています。

「仲間とのかかわり方」では、上巻P117以降の、他教科と関連させた「学びのポケット」で、仲間自分の思いを伝える方法を掲載しています。また「まなびリンク」が位置づいており、「デジタルずかん」や「QR 動画」「ワークシート」が学びの一助となるよう構成されています。また、所々に仲間とともに学ぶ写真やイラスト、活動の中で、気付いたつぶやきや会話を意図的に掲載しています。

⑤信州教育出版は、見本が送付されていないため、調査することができませんでした。

⑥「光村図書」についてです。

「自分自身の変容や成長の気付き」については、小單元ごとに活動が一覧できるように見開きで完結する構成になっています。写真と吹き出しの効果で、学習の過程を提示し、紙面を順に見ていくことで、どんな気付きを得て、どのように学びを深めていくかを自然とイメージできるようにしています。また、下巻P39にあるように、自己評価や相互評価の窓を示して、児童自らが振り返られるようになっ

ていることも特徴的です。特に、「ふりかえろう」のコーナーをすべての小単元に位置付け、「感情の振り返り」「思考・表現の振り返り」の両面で学びを確かめられるようになっていきます。

「仲間とのかかわり方」では、絵本作家ヨシタケシンスケさんのイラストを用いて、「こんなことあるかもね」などの紹介コーナーや、「学び方のヒント」別冊の「ひろがるせいかつじてん」「QR 動画」の掲載があり、仲間との学び合いや伝え合いのヒントとなるよう構成されています。写真や吹き出しで仲間と対話する場面を示すことで、自分の活動をより詳しく、様々な視点で振り返り、次への学びにつながるようにしています。

⑦「啓林館」についてです。

「自分自身の変容や成長の気付き」では、思いや願いをもつ「わくわく」、活動や体験をし、感じる・考える「いきいき」、伝え合う・振り返る「ぐんぐん」の3つの段階で構成され、主体的・対話的で深い学びの実現ができるように工夫されています。下巻P21のように、紙面に「学びのキーワード」として、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの気付いたことをもとに考えるための多様な学習活動例を示し、児童が思考を働かせ、気付きの質を高めることができるようになっていきます。

「仲間とのかかわり方」では、上巻P118、下巻P110 からあります巻末の「がくしゅうずかん」で、「気持ちをつたえよう」や「友だちと考えよう」のコーナーがあり、自分の気持ちの伝え方や、考えを深める時の話し方が紹介されています。また、グループで考えたり、話し合ったりする活動の様子が具体的に示されており、他者と意見を交流することで自分の考えを広げたり、深めたりする姿がイメージできるようにしています。

- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「自分自身の変容や成長の気付き」、「仲間とのかかわり方」に課題がある美濃地区については、児童が「仲間とのかかわり合いながら自分のよさを自覚できる」学びができるようにすることが重要となります。
- ・よって、「東京書籍」と「光村図書」の二者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

・続いて、この2者を着眼点1（3）「気付きの質を高める学習活動」について、2年生「おもちゃづくり」の単元で比較した結果を説明します。

- ① 「東京書籍」の下巻、P50・51では、「学びをふかめるコーナー」が位置付いています。ここでは、2人の児童が会話をしながら気付きの質を高めていく様子が、矢印を使って示されています。A児が、「わゴムをたくさんつけたら、もっと高く飛ぶのかな。」と発言し、実際に行います。しかし、紙コップがつぶれてしまうという結果になりました。それを見たB児が「私は紙コップを重ねて丈夫にしているよ。」と教えています。その後、「ほかにもっと高く飛ばす方法はないかな。」と思考している様子が示されています。最後に活動の記録用紙を示し、試してみたい工夫とその結果から、分かったことを用紙にまとめている様子が示されています。これらは、仲間と交流し「くらべる」「ためす」という活動を通して気付きの質が高まる姿を示しています。そして記録用紙にまとめることで、自分の気付きを確かなものにしていきます。また、活動のねらいとなるリード文の前に、評価が見えるマークを明示し、指導と評価の一体化が図れるような工夫がされています。このことで、どのような姿を期待するのかが明らかになり、教師は授業のイメージをクリアに描くことができることに繋がります。

- ② 「光村図書」の下巻 P52・53 では、左下の茶色い枠の部分「学び方のヒント」で、つまずいたときや試行錯誤するとき大切に考える考え方や活動を示しています。ここでは、何回も試しながら改良を繰り返すことや、うまくいった理由を考える、さらに楽しくなる遊びを工夫するというヒントが示されています。活動の記録用紙には、「試してみたこと」と結果を記し、そこから分かったことや思ったことを表現する様子が示されています。これらのことは、主体的・対話的で深い学びに繋がる手がかりとなっています。右下に振り返りのページを位置付け、「感情の振り返り」・「思考・表現の振り返り」の両面で児童自らが自己評価や相互評価がしやすいような工夫がされています。

次に着眼点2（3）「仲間とのかかわり方」について、2年生「町探検」で調べたことをまとめる活動を比較した結果を説明します。

- ① 「東京書籍」の下巻 p 86・87 の「町探検の発表を計画する」ページでは、板書をイラストで示し、思考ツールを利用して「伝える相手」や「伝える内容・方法」について整理する様子が示され、協働的な学びを視覚化して、授業をイメージしやすくしています。また、仲間と付箋を動かしながら伝えたいことを整理するイラストがあり、思考を整理し、伝えたい内容を明らかにする方法の例を示しています。さらに、仲間に動画で伝える方法を紹介し、より伝わりやすい方法を考えるように示しています。P87の吹き出しには、「まつ木さんの思いをみんなにつたえたくてパンフレットを作ったよ。」などと、相手意識をもって活動をまとめていることが示されています。このように、活動や体験を通して得た気づきを仲間同士で伝え合う姿を通して、協働的な学びの実現に向かう姿を促しているという点でよく配慮されています。
- ② 「光村図書」の下巻 P80・81 では、写真での会話を通して、調べた多くの情報をお知らせするため新聞、お店に貼ってたくさんの人に短時間で読んでもらうためのポスターなど、目的に合わせて表現方法を変えるとよいことが示されています。「みて！」のマークから別冊の関連するページの中で、まとめる時の準備として、役割分担をする必要性を知ることができるようになっています。「ひろがるせいかつじてん」という別冊の資料で、協働的な学びについて紹介している点で配慮されています。以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

- ・光村図書と東京書籍の比べると、パッと見の印象だが、光村図書は写真が多く、東京書籍はイラストが多い気がします。また、光村のイラストは漫画っぽいと感じました。その点でどちらが良いとか、違いはありますか。

【答申者】

- ・調査したところ、東京書籍は生き生きした写真が多く、会話がよく載っていると感じました。東京書籍はイラストが多いのですが、教師側の視点として、若手の先生にも授業の進め方がイメージしやすいものになっているなど感じました。

【委員】

- ・生活科が合科的な学習の必要性からできたものだと捉えています。理由は1, 2年生の子どもたちは未分化な状態ですから、社会科とか理科と分かれていない方がより実態にあっているという考えからです。本来であれば生活科には教科書は必要ないと思っています。しかしながら、先生方とくに若い先生方は教科書がないと困ってしまうことが考えられます。活動あって学びなしでは困ります。そういう意味で考えると、教科書らしくない教科書であると良いですし、子ども達の生活に密着しているのが良いと思います。また、東京書籍には「季節」を非常に多く感じます。季節を過ごしていく中で、色々なことに気づいていくということが大切になります。もちろん、2者とも内容はよくできていますが、光村図書のほうはより詳しく載っていて教科書らしいなと感じます。そう意味では東京書籍の方がよいのではないかと感じます。
- ・ぱらぱらと見比べますと、東京書籍はアップとルーズの視点の両方で行われていることに気づきます。アップで焦点的にここを見せたいというものと、ルーズで大枠の、例えばこんなものを置いて教室環境を整えるとよいよといったイラストがあります。指導者にとって板書がつかめやすし、子どもたちもイメージしやすかったりします。光村図書はアップした写真が多いです。東京書籍は両方を捉えながら、子どもも先生も大事にしてつくられていると感じます。また、東京書籍は、他教科につながることで話せるような内容を大事にされていると感じました。
- ・理科の視点から見ますと、東京書籍の上35ページに見つける、比べる、例えるがあります。比べるは、3年生の理科でとても大切にしている見方ですのでそこにつながっているのだなと思います。もう一つ感心したのが、例えるというものです。これは、岐阜県の理科で以前、その子なりの理解の仕方ということですごく大事にしていたことです。この比べると例えるがあるという点が、岐阜県の理科に非常に合っていると思いました。他者で、関連付けるというものがありませんでしたが、これは4年生5年生の見方になるので、レベル的に難しいのではないかと感じました。
- ・上巻の夏を見つけようというところで、光村図書は「夏とともだち」、東京書籍は「夏がやってきた」というところになりますが、東京書籍は例えば42ページ辺りで公園で夏を探そうというページがあります。自分たちで夏を探しに行く前段階でどんなものが夏らしいものなのかといったイメージづくりができるかと思いました。どちらの教科書においてもそれぞれのページに記録カードの例示が位置づいており、書くことが苦手な子にとって書くことのヒントになるかと思いました。
- ・先程も東京書籍の35ページの素晴らしさを言われたと思いますが、私も34, 35ページがあるだけでも東京書籍を選ぶ価値はあるかと思います。小学校では、教室の背面によく朝顔などの観察図鑑、観察レポートをよく掲示しますが、理科が専門でない先生でも34ページや35ページをきちんと指導すれば、子どもたちもきちんと観察できるようになる。しかも、コンピューターを使うということも書いてある。タブレットでもこういうことができるという、今のICT教育機器の活用にもつながる。そういうことから考えても東京書籍が良いなと思います。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、東京書籍を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思っています。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

道徳

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

・道徳では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などにに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。その結果を〇〇ページ以降の意見書にまとめました。

・今回、「特別の教科道徳」の調査研究を行ったのは、6者です。

最初に6者の教科書の特徴について、説明いたします。

検定基準によれば、教科書に掲載される教材の「基本条件」には次の3つが求められています。

- ・一つ目、生命尊重、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応などの現代的な課題など、すべてを教材として取り上げられていること、
- ・二つ目、言語活動、問題解決的な学習や道徳的行為における体験的な学習について適切な配慮がされていること、

そして、児童の心身の発達段階に即し、多面的・多角的に考えられるように適切な配慮がされていることです。

各教科書会社の教科書には、これらを踏まえた上で、いじめの防止や情報モラル、現代的な課題などを取り扱う教材の多彩さがみられました。

6者には独自の編集上の特徴がありますので、最初に6者の教科書の特徴について、説明いたします。

「東京書籍」についてです。

全体的にシンプルで使いやすい教材の構成となっています。文末には「かんがえよう」とどの学年にも考える視点を2つに絞っています。良質な教材で、児童が毎時間、読み物教材を中心に学習することで、発達段階に応じて確実に道徳性を高めていくことができるような工夫がなされています。

「教育出版」についてです。

全学年で読みもの教材に「かんがえよう」と「ふかめよう」が位置付けられ、考えたことを「つなげよう」で、実際にどのように行動に移していったらよいのかを考えさせることが意図されています。また、学習の終末では、二次元コードにアクセスし、学んだことを広げるような工夫がなされています。

「光村図書」についてです。

すべての教材に「考えよう・話し合おう」「つなげよう」の構成で作成されており「考えるヒント」というコーナーでは、授業の展開例やまなび方が示されています。対話的な学びを深める工夫や道徳的価値を捉えさせる配慮がなされています。

「日本文教出版」についてです。

全学年各教材の最初にリード文があり、全学年で読みもの教材に、「考えてみよう」と「見つめよう 生かそう」が位置付けられ、考えたことを、実際にどのように行動に移していったらよいのか見つめさせる展開となっています。さらに「ぐっとふかめよう」では、道徳価値理解をもとに、多様な考え方や感じ方にふれ、多面的・多角的に考える工夫、さらに実際の行動に結びつけるための工夫がされており「実効性のある力の育成」が意図されています。

「光文書院」についてです。

光文書院では、全学年各教材の最初にリード文があり、本時のねらいに迫る問いが位置付いています。文末には本時で学んだことを通して自分の生き方について「考えよう」「まとめよう」「広げよう」と考えさせる問いかけを3つとして「考え議論する視点が子どもにも分かる」構成となっています。

「学研」についてです。

全体的にシンプルでつかいやすい内容となっています。文末に「考えよう」のコーナーでどの学年にも2つの視点で考えるように構成してあります。役割演技の教材が付属しており、読み物教材で学んだことをもとに、多様な学習ができる工夫がなされています。

今回の調査研究で大切にしたい観点は、これから述べる美濃地区の実態に即した2点です。

- ・1点目です。美濃地区の各小学校が大切にしている「問題解決的な学習」「考え、議論する道徳」を実現するために、主体的・対話的な学びがどのように展開できるようになっているか。
- ・2点目です。第3次岐阜県教育ビジョンの基本方針にもあるように、ふるさとへの誇りと愛着を育むことに資する教材の内容や分量はどのようなようであるか。

以上の2点の観点からすると、6者のうち「光文（こうぶん）書院」と「日本文教出版」の2者が、美濃地区に適するものであると考え、この2者の教科書を、詳細に調査研究いたしました。

最初に光文書院です

光文書院は、

【資料1-①】全学年の教材の最初にリード文があり、本時のねらいに迫る問いが位置付いていることで、「考え議論する視点」が明確になっています。

また、巻頭資料が充実しており、その中に、「いろいろなやりかたでかんがえてみよう」があります。6年間を通して、発達段階に応じ、顔や矢印、ウェビングや各種チャートなど考えるための様々なツールが紹介されています。

2年生の「小さなできごと」では、混み合うバスの中で、おばさんの足を踏んでしまい、だまっておこるかあやまろうか迷っている女の子がいます。この「だまっておこる」「あやまろう」の気持ちを、

【資料1-②】このスケールに表すことで、自分の立場や考えを整理することができます。スケールを使って心情を出し合うことで、「かんがえよう」の発問について考え、議論することにつなげていきます。

まとめる場面では「礼儀正しくすることの大切さ」をさらに考え、「ひろげよう」で「自分が礼儀正しくできたときのこと」をふりかえり、道徳的価値に迫ることができるようになっていきます。

【資料2—①】また、4年生の『『その人』をよく見てみよう』の教材では、「多様性」がテーマになっています。漫画で次の紹介がしてあります。主人公がリレー大会の始まる前に、出場する選手の中におばあさんがいることに、「大丈夫かな」と心配しますが、おばあさんは1番になります。「ひとつの特徴だけ見て、分かったつもりになっていないかな？」という問いかけを、子どもたちにして、次の資料に移っていきます。

【資料2—②】次の資料の「一つ目の教材レッド—赤くて青いクレヨンのお話—」では「レッド」と名付けられたクレヨンの話を通して、見かけで決めるのではなく、一人ひとりとは違うということに気づき、違うみんなと一緒に楽しく過ごす大切さについて議論し考えることができるようになっていきます。さらに、「まわりの人について、その人らしさを探して話し合ってみよう」と発問し、自分達の身近に引きよせる工夫がされています。

【2—③】また、3つ目の教材「ブラジルからの転入生」では、「ブラジルから来た転入生はサッカーが上手」と、一つのものの見方で判断しないことが分かり「よい友だちになるためには大切なことをまとめよう」と問いかけて、その人自身を大切に仲間と仲良くなるという、一つ目の教材とは違う視点から多様性を認めることについて考えていきます。

以上が、光文書院です。

次に「日本文教出版」についてです。

岐阜県の第3次教育ビジョンには「ふるさと教育の充実」があげられています。子供たちが将来、世界や地域の活性化に貢献する「地域社会人」として活躍するためには、ふるさとの自然や文化をよく知ることや自分がふるさとで活躍していく姿が描けるようにしていくことが大切だとされています。そのことについて、

【資料3—①】この日本文教出版3年の「あこがれの人」の教材は美濃地区の郡上市の伝統文化の一つである「郡上踊り」についてとりあげられています。また、「郡上踊りのジュニアクラブに入っている先輩を「あこがれの人」と捉え、子ども達が登場人物を身近に感じる魅力的な資料になっています。

【資料3—②】教材の最初には、話し合いの視点が示されており、登場人物や郡上八幡の場所も地図で確認できるようになっています。主人公が「あこがれの人」の姿を目指して、弱い心に打ちかかっていく姿を、子どもたちは自分と重ねていきます。

【資料3—③】終末の問いには「自分の思いがゆらいでいるときに、たいせつにしたい考えはなんだろう。」と問いかけることで、道徳価値理解を深め、自分の心をさらに深く見つめることができるようになっていきます。この教材は、意欲的に考えたり議論したりできるとともに、ふるさとへの誇りと愛着をはぐくむふるさと教育の推進の一翼を担う教材となっています。そのため、

【資料3—④】二次元コードを開くと、郡上市の郡上踊り保存会ジュニアクラブの実際の練習風景を見ることができるようになっています。

6年生の「心づかいと思いやり」では、【資料4－①】新聞記事と【資料4－②】詩の二つの資料から【思いやり】について考えます。

【資料4－①】タクシー乗り場の長い行列を耐えている多くの人の中で、タクシーを待っている一人の女性の「同じ方向の方おられませんか」という一言により、その場の空気が和みます。主人公は、その場面に出会うことで、その場にいる人たちの、つらく苦しい思いを解消してあげたいという女性の行動の素晴らしさに気づきます。

【資料4－②】次に「行為の意味」という詩を取り上げます。詩の中で「思い」を「思いやり」に変え、「こころ」を「こころづかい」に変える場面では、見えないものを見えるようにするために、行動に移すことが大切なんだということを考えます。この2つの資料から思いやりのある行動をする時の心を見つめることで、より深い学びができます。

【資料4－③】さらに、「ぐっと深める」ために、身近で体験している場面、実際の生活で起こりうる場面を想定し、意見を出し合うことで、子どもたちが多様な考え方や感じ方に触れ、多面的・多角的に考えることから、実際の行動に向かう自分の心に気づいていくことができると考えています。

このように、日本文教出版は読み物教材を中心に、学年の発達段階に合わせて授業を展開することに重点が置かれています。質の高い議論や「実効性のある力」を育成するためには、児童の発言を的確に問い返したり、役割演技をさせたりして、授業を深めていく内容となっており、また、教員の力も育っていくような工夫もされています。つまり、教師にとって使いやすいのではなく、児童にとってどうかという基準を満たしており、教師の力量も高めていくことができる教科書となっています。

以上のことから「日本文教出版」の教科書が、美濃地区の実態には適していると考えます。

以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

- ・かぼちゃのつるという有名な資料で2者を比べますと、日本文教出版の方がシンプルに感じます。光文書院の方は吹き出しで書いてあったり、普通に書いてあったり、1年生にとってストーリーを捉えるのが困難なのではないかと思えます。できるだけシンプルが良いのではないのでしょうか。もう一つ言いますと、光文書院の方は必ず資料の後ろに、考えよう、まとめよう、広げようと4つあります。この4つについて全部考えていますと授業で話し合う時間が足りなくなります。先生が道徳の授業においてどんな気持ちですか、どうしてこうしたのですかと、聞けば聞くほど、資料のあらすじをなぞる授業になってしまい、子どもたちはどんどん嫌いになっていきます。できるだけシンプルで子どもたちが興味をもってしっかりと話し合って意見を出し合うことが大事だと考えます。そういう意味では、日本文教出版の方が良い気がします。

【答申者】

- ・かぼちゃのつるに関しては、私どもも比較検討をいたしました。授業をする際には、挿絵は大事になります。子どもたちの目を引くようにどういう場面でどう提示するのか考えた時、例えば光文書院のつるがプツンと切れる場面よりも、日本文教出版の場面の方がよいのではないかと考えました。また、たくさんの発問をするのではなく、子どもたちからたくさんの意見を聞きだすには、低学年であっても2つ程度の発問が妥当ではないかと思えます。4つも発問していたら、教師の力量にもよりますが授業がつまらなくなってしまうのではないかと思えます。

【委員】

- ・文教出版だけ、道徳ノートがあります。それについてはどう考えられましたか。

【答申者】

- ・調査研究をしていく中で、道徳ノートがある会社とない会社があります。教科書と道徳ノートをどの様に使っていかということについては、各学校の道徳の進め方にもよります。必ずこのノートを使うという学校ばかりではありません。このノートがあることで、子どもたちが確実に足跡を残すという教材になっています。1冊あることで、教科書と別で使いやすという研究をしたところです。

【委員】

- ・重点とは少し違いますが、道徳の中に扱われるいじめの資料について、何か違いがあれば教えていただきたいです。巻末にどんなことをしているかというものが分かるようになっており、日本文教出版の方が、バランスよく行われている気もするのですが、その点はどうでしょうか。

【答申者】

- ・いじめ問題については、どの会社も適切に取り上げられているなど感じました。資料の数については、それぞれの会社で多少の違いはありますが、いじめの問題、命を大切にすること、情報モラル、それぞれどれもバランスよく取り上げられているなど感じます。

【委員】

- ・日本文教出版の私のせいじゃないという資料を見させていただき、こういった教材の示し方もあるんだなあと思いました。色々な考えを読みながら自分の考えをもつ、そして、学級で議論をしていく。心のベンチというページも日本文教出版の特色で、内容もよく工夫されていると思いました。
- ・先程デジタルコンテンツのところ、郡上踊りの保存会ことがありましたが、2者を比較して使い方の特徴や違い、良さがあれば教えてください。

【答申者】

- ・子どもたちについて、ストーリーが少し難しいものについては、2次元コードで映像を見られるなどの工夫がうまくなされているなど感じます。2次元コードから郡上踊りの保存会のサイトに入っていったところ、練習風景を見ることができ、伝統文化についてイメージしにくい子どもたちにとって大きな助けとなります。各会社、資料を読むだけでは捉えきれない場面を取り上げて映像を作り上げているなど感じました。大きな違いはありませんでしたが、良い映像が取り上げられているなど感じました。

【委員】

- ・着眼点のふるさとへの誇りと愛着をはかるという点では、教科書は全国版のため、岐阜県と関係している教材がたくさん載っていることも大事だが、それだけではないです。2者について、どんな違いがあ

りましたか。

【答申者】

- ・ふるさとへの誇りや愛着を育むために、ふるさとの偉人や地域の人を取り上げるということもありますが、憧れの人という資料は、郡上市を取り上げてはいますが、主人公は少女です。主人公の気持ちに共感しながら、価値に迫っていく授業展開になっています。この資料には、両方が入っていると思いました。別の教科書にも、郡上踊りの資料がありました。コロナ禍においても郡上踊りを何とかしていこうとするおじいさんの気持ちに子どもたちが近づいていこうというものでありましたので、両面が育っていく文教出版の方が良いかと思いました。

【委員】

- ・道徳ノートがついているところとそうでないところがあり、各者の思いが分かります。道徳は、自己を見つけることが大切であり、高学年になればなるほど、書く活動は必要になってきます。そうすると、ノートのない場合はプリントを用意しないといけません。あった方が先生たちには親切かもしれません。
- ・資料を見ますと、5年生で太鼓が出てきます。太鼓の活動をしている学校は多くあり、身近に感じる資料だと感じました。岐阜県にあった教科書かと思います。日本文教出版には、考えてみようというものがおそらく主発問になるものだと思いますが、その1点のみとなっています。大事なところだけを取り上げており、非常に分かりやすいと思います。光文書院は、いくつも質問があるのでどれが主発問なのか分かりづらいところがあります。やはり、日本文教出版の方が取り扱いやすいのではないかなと思います。

【司会】

- ・たくさんご意見をいただきありがとうございます。今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、日本文教出版を採択することが望ましいと考えられますが、よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

理科

【答申者】

1 答申者の自己紹介

2 着眼点の説明

- ・理科では、学習指導要領や第3次岐阜県教育ビジョン、県の方針と重点などにに基づき、このようにすべての着眼点について調査研究を行いました。
- ・美濃地区における理科指導の課題は、大きく2点あります。
- ・1点目は、「資質能力の3つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成」することです。問題解決の力の育成に向けて、教科書における理科の見方や考え方の扱い、学びに向かう力をつけるために単元の導入や振り返りの場面、新たな問題を見出す場面等が大切であると考えました。
- ・2点目は、「ICTを活用した学習活動の充実」です。ICTの活用については、理科が専門でない教員の大きな助けにもなります。一人1台端末について、「まず使ってみる」段階から、「より効果的に活用する」ことで、子どもたちの興味、関心をさらに高め、学びを広げたり深めたりすることができると思えました。
- ・これらの課題と関連がある着眼点1（1）、着眼点2（2）の2点から説明をします。

3 着眼点に即した各教科書発行者の特徴の説明

- ・着眼点1（1）「資質能力の3つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成」すること、着眼点2（2）「ICTを活用した学習活動の充実」について、6者すべての調査結果を説明します。

①「東京書籍」は、

- ・問題解決学習が進めやすいよう、すべての単元の導入に問題をつかむための活動を、子どもの経験や実体験から設定しています。また、問題解決の過程で働かせる「理科の見方・考え方」をキャラクターとともに明示し、児童がそれらを意識しながら思考することで「深い学び」につながるように構成されています。
- ・単元末の「ふりかえろう」で「知識及び技能」の観点で振り返り、「たしかめよう」で「思考力・判断力・表現力等」を含め、児童自身で振り返ることができるように構成されています。
- ・学習の流れの中で、学習をサポートしたり、学んだことを広げたりすることができる動画などが見られるよう、二次元コードが多数配置されています。（二次元コード全522個）
- ・プログラミング教育に関しては、全学年で扱われており、独自ソフトで教材がなくても学習できるように工夫されています。

②「大日本図書」は、

- ・全単元で問題解決の流れが分かるよう工夫されており、「問題を見つける」と「考察」の場面で、児童が「理科の見方・考え方」を働かせて考えることができるよう、キャラクターのセリフでサポートしています。

- ・単元や学年を超えて系統的な視点を意識した「学びをリンク」や「りかのたまたまばこ」や「チャレンジ問題」等で、学んだことが日常生活で活用できるようにしています。（「日常生活や社会との関連」全 82 ページ）
- ・学習の各場面をサポートするコンテンツが、教科書の右下または左下に位置を固定して二次元コードで示されているので、見つけやすく、多数配置されています。（二次元コード全 567 個） ▲iPhone で動かない動画がある。
- ・プログラミング教育に関しては、全学年で扱われており、プログラミングが体験できる教材が紹介されています。

③「学校図書」は、

- ・いろいろな「見方・考え方」を使いながら問題解決ができるよう、解決の過程で育成する「資質・能力」をキャラクターで示し、学年が上がり質が高まるとそのキャラクターが進化するなど、楽しみながら学んでいける工夫があります。
- ・単元のはじめの「できるようになりたい」で、この単元でつけたい力について見通しをもたせ、単元末の「できるようになった」で自己評価することで、自己の成長を自覚できるようになっています。
- ・学習の振り返りや確認、さらに深めたい内容について、二次元コードが配置されており、現在各校でよく活用されている動画（NHK for スクール）とも連携しています。（二次元コード全 529 個）
- ・プログラミング教育に関しては、6 年生で扱われており、独自ソフトで教材がなくても学習できるように工夫されています。

④「教育出版」は、

- ・学年ごとに「つけたい力」を明確に（例：3 年「ちがいやにしているところに気づいて問題を見つける力」）して、児童キャラクターの発言で問題解決の見方・考え方を示しながら、学習が進められるようにつくられています。
- ・巻末に各学年で学んだこと（問題解決の力や学習内容）がまとめられており、それらが次の学年の巻頭に位置付けてあることで、学びがつながるようになっています。
- ・ICT の活用にかかわる二次元コードの配置は、他者に比べて少ない（二次元コード 235 か所）ですが、独自の「まなびリンク」につながり、Web 図鑑等も活用できます。
- ・プログラミング教育に関しては、6 年生で扱われており、プログラミングが体験できる教材が紹介されています。

⑤「信州教育出版社」は、見本本の提供がなかったため、調査ができませんでした。

⑥「啓林館」は、

- ・問題解決の過程を「見つける・調べる・まとめる」の 3 段階の学びのサイクルで示し、対話的、協働的な活動が充実するよう、構成されています。
- ・キャラクターの吹き出しの「見方・考え方」に緑のマーカーが引かれており、子どもたちの主体的な問題解決のサポートをするとともに、日常生活につなげて関心・意欲がさらに高まるように工夫しています。（「日常生活や社会との関連」を取り上げた回数は、全 86 ページで他者と比べて最も多い。）
- ・二次元コードの数は少ない（二次元コード全 362 個）ですが、直接体験と ICT を組み合わせながら、「どのような場面で」「どのような目的で」ICT を活用すると効果的かが考えられており、1 人 1 台端末の活用場面が多く示されています。

- ・プログラミング教育に関しては、全学年で扱われており、独自ソフトで教材がなくても学習できるように工夫されています。
- ・以上、各発行者の特徴について説明しました。「資質能力の3つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成」すること、「ICTを活用した学習活動の充実」に課題がある美濃地区については、「理科の見方・考え方の扱い」や「単元の導入、振り返りや新たな問題を見出す場面」が工夫されていることや「二次元コード、一人1台端末の活用場面やプログラミング教育の扱い」が充実していることが重要となります。
- ・よって、「東京書籍」と「学校図書」の二者がより実態に合っていると考えました。

4 調査研究結果の比較

- ・続いて、この2者を着眼点1（1）から比較します。「資質能力の3つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成」することについて、比較した結果を説明します。まずは、構成・配列上の特徴についてです。
- ①「東京書籍」は、各学年で身に付けさせたい理科の考え方を、段階的に育ていけるよう、よく配慮されています。
- ・例えば5年生では、条件制御が容易で、目で見ても違いがつかみやすい「植物の発芽と成長」を1学期に配列し、制御する条件が多くて複雑な「ふりこの運動」を3学期に配列することで、段階を追って条件制御する考え方が身に付けられるようにしています。これは、理科を専門としない教員にとっても条件制御の考え方をやさしく、理解しやすい配列だといえます。
- ②一方、「学校図書」は、「ふりこの運動」を年度初めに扱い、その後に「種子の発芽と成長」、「実や種子のつき方」を扱う配列となっています。これは、制御する条件が多い「ふり子の運動」を丁寧に教えた後で、児童が主体的に探究する中で条件制御する力を育てるような単元構成・配慮がなされています。（ただしこれは、理科を専科としない教員にとっては4月に最も複雑な考え方を要するふり子を扱わなければならないため、若干ハードルが高いともいえます。）

- ・続いて、3つの柱にかかわる学習内容や学習活動の程度や分量についてです。
- ①「東京書籍」は、児童が主体的に、疑問や願いをもって追究していけるよう、よく配慮されています。
- ・例えば3年「風やゴムのはたらき」では、風で動く車を題材にすることで、昨年度まで生活科の学習において大事にしてきた「気付き」の後で次の学習活動が展開できるような学習内容になっています。また、「もっと速く動く車をつくるにはどうすればいいか。」という児童の主体的な疑問や願いに基づいて探究した後で、科学的な見方や考え方を育てるようになっています。また、風のはたらきで使った車の題材を、そのままゴムのはたらきの実験でも使えるように配慮がされています。これは、3年生で付けたい比較する考え方を育む点においても、よく配慮されています。
- ②一方、「学校図書」は、3年「風のはたらき」において風車を題材にしています。風車のつくり方も一律に、丁寧に示すことで、どの子も同じ風車を作り、同じ意識のもとで単元の学習を進めていけるようになっています。ただし、その後に学習する「ゴムのはたらき」から車が変わります。これは、各単元において習得させたい知識や技能を身に付ける上で最適な題材を検討し、採用したものと考えられま

す。

- ・次に、この2者を着眼点2（2）から比較します。「ICTを活用した学習活動の充実」について、比較した結果を説明します。
 - ・ICTは、理科学習の一層の充実を図るために必要不可欠であり、明確な意図をもって使うことによって、見方・考え方はたらしめるための有用な道具となります。今回の教科書改訂にあたり、どの教科書会社も、ICTの活用が充実しており、特にこの2者は多く（「東京書籍」は522個、「学校図書」では529個）の二次元コードが配置されています。
 - ・「東京書籍」は、観察・実験の手順や安全面の確認、「学校図書」は結果の確認や振り返りにおいて、ICTのコンテンツが充実しています。4年（東京書籍）「自然のなかの水のすがた」、（学校図書）「自然の中の水」において、水の蒸発について調べる場面で具体的に比べてみます。
- ①「東京書籍（p.94、95）」は、予想（デジ活）と、実験方法（やり方）に2次元コードがついています。予想と理由が書き込み型のコンテンツになっていることで、根拠のある予想をしたり意見を伝え合ったりする力を高める工夫がされています。また、実験方法の動画では、最初の水を同じ量にするなど正しく実験を行うための確認ができ、理科を専門としない教員も安心して観察・実験に取り組めるようになっています。
 - ②「学校図書（p.112）」では、結果の場面に2次元コードがついており、水が蒸発する様子を高速再生の動画で見ることができるようになっています。動画を見ることで、実験の結果を確認したり、後で振り返ったりすることができるようになっています。
- ・どちらもICTを活用することにより授業が充実するように工夫されていますが、ICTは見方・考え方はたらしめるための道具であるという点からみると、東京書籍は、児童自らが見通しをもって観察・実験を行って結果を確かめることを大切に、それらを確実にできるようなサポートをしていることから、より有効なICTの活用の仕方であると考えます。
-
- ・続いて、ICTを活用した学習活動の充実において、論理的思考力を育成するためのプログラミングの活動について、6年「電気の利用」の単元で具体的に比較します。
- ①「東京書籍」では、6年『電気と私たちの暮らし』で、身の回りで電気を効率よく使うために工夫されている街灯やエスカレーターを提示し、挿絵を通してどのような仕組みになっているかを考えさせ、プログラミングの学習につなげています。QRコードを読み取ると「プログラミンをしてみよう」というオリジナル教材につながり、人感センサーを使ったプログラムが作成できるようになっています。児童が作成したプログラムはクラウド上に保存し、何度も改良できるようになっています。さらに、フローチャートを使ってプログラミング的思考を行わせたり、プログラミング教材MESHを使用し、実際にLEDを点灯させるプログラミングが行えるようになっています。独自教材でプログラミングしたもののシミュレーションだけでなく実物を利用したプログラミングによって、電気の有効利用をより実感できる内容になっています。
- また、どの学年にも巻末に『理科とプログラミング』が位置付けられており、3年では「身のまわりの物のなかま分け」、4年では「熱中しょう計のしくみ」、5年では「スマート農業の工夫と仕組み」、6年では「防災のプログラム」として、それぞれプログラミングソフトが用意されており、学年の発達段

階に応じたプログラミングの指導が行えるようになっていきます。他のプログラミングソフトへ容易に接続・利用できるような工夫もしてあり、様々なプログラミングが体験できるように配慮されています。

②「学校図書」6年『電気と私たちの生活』では、「私たちの身の回りでは、電気を効率よく使うために、どのようなくふうがなされているだろうか。」という問題を学習する中で、多くの電気製品には、目的に合わせてセンサーやプログラムが利用されていることを学び、プログラミングの学習につなげています。また、『学校図書のQRコード教材 学図プラス』でプログラミングができるオリジナル教材が準備されています。この教材はステージ1からステージ6へとレベルアップしたプログラミングができるように構成されており、ステージ5・6では、信号機や歩行者用信号機を自分なりに工夫をこらして表示させるプログラミングが作成できるようになっています。また、プログラミングに困ったときは画面の右下に説明のアイコンが配置されており、その説明を読みながら自分で学習が進められるように配慮されています。

- ・以上の調査研究の内容をもとに、総合的に吟味した結果、「東京書籍」が美濃地区で採択する理科教科書として、最もふさわしいと考えます。

以上が調査研究となります。

【司会】

- ・それでは委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

【委員】

- ・東京書籍の6年生教科書159ページ、水溶液の炭酸水の実験について、水の中で気体を集めていますし、線香を入れて火が消えるというものになっています。学校図書は151ページにありますが、水は特に用意されていませんし、線香の火が消える実験もありません。これはどちらが良いのでしょうか。

【答申者】

- ・水上置換の優れた部分は、どの位気体が集まったかが目で見やすい、確実に発生した気体を集めることができることです。ただし、水に溶ける気体はできないので、この方法でできるものにおいては、水上置換を使うことが有効かと思います。線香については、例えばろうそくの場合は、炎が大きくなる時、試験管についたり、燃えたりすることがあるので、それを防ぐために線香を使う場合があります。線香を使わなければならないというものではないと思います。

【委員】

- ・東京書籍の方が実験が詳しく書いてあります。しかもこちらの方が大判で見やすく、理科の専門でないもの間違えなく指導できると思います。また、5年生に流れる水の働きという単元があります。比べてみると、東京書籍は長良川を扱っています。郡上市、美濃市、岐阜市と出ていて、身近に感じる内容になっています。
- ・先程の実験についてですが、線香で調べたのは、酸素でないことをはっきりさせるためだと思います。

今の理科は、結果を直ぐに出すというより、酸素でないならば何だろうかという思考の過程を大切にしています。その点を考えると東京書籍は非常によくできていると感じます。ただ、よく似たつくり、思考の過程を大切にしている教科書として啓林館が挙げられると思うのですが、なぜ、最初の段階で外されたのかをその理由を教えてください。

【答申者】

- ・今回の視点で言いますと、ICTの活用を重要な柱の一つとさせていただきました。ICTの活用の中で、今回特徴的だったの点としましては、2次元コードがどの教科書もたくさんありました。啓林館については、他社に比べて少なかったので、理科を専門としない先生方は、動画で実験方法の説明があったり、結果が見やすく説明してあったりするものが求められると考え、この時点で外させていただきました。

【委員】

- ・2次元コードについて質問したいです。理科の専門でない先生方も多く授業をされていると思いますが、恐らく皆さん余裕のない中で授業を行っていると思います。そんな状況で、理科で大切にされている学んだことを広げたりすることは、正直難しいのではと思います。報告書にある現在学校で活用されている動画というものは、授業において学んだことを広げたりできるものなののでしょうか。その辺りについて2者の違いを知りたいです。

【答申者】

- ・動画については、先生方が普段学校で使っている学校図書に簡単につながるようになっていきます。東京書籍もそちらにつながるようになっていきます。その点については、2者において大きな差はないと思います。更に、東京書籍独自の実験方法については、動画で詳しく丁寧にできています。理科専門でない先生方の大きなサポートになりますし、子どもたちも言葉や絵でなく動画で見ることができますので、サポートになります。また、広げるということについては、学んだことを日常生活の場面につなげていくということで、動画を見て、実感できる。どこの者についてもよくできています。先生自身も学べるものになっていると思います。

【委員】

- ・学習した内容がどれだけ生活に関係しているかという点で2者を比べると、東京書籍の方がそういった視点の資料が多いと思いました。学校図書は、学んだ内容の専門的な内容でこんなことができるよというものが多くありました。生活に関連したという点では、東京書籍が望ましいかと思いました。
- ・SDG's、異常気象、カーボンニュートラルについて2者の違いはどの様なもののでしょうか。

【答申者】

- ・学校図書には裏に大きく載っているのを目を引くのですが、東京書籍も1～17の視点が教科書の中にマークできちゃんと位置づけています。東京書籍も非常に意識していますし、学校図書はマークではないですが、よくあるSDG'sのバッチで教科書に出てきます。そういうところで各者工夫して取り扱っていると思います。

【委員】

- ・デジタルコンテンツの中で2者を比べた報告については、各者の良さどちらも大事なことだと思いました。ただ、専門でない先生方が授業を進める上では、東京書籍のように条件をきちんとしてこの様に進めましようとして説明されている東京書籍の方が分かりやすいのではないかなと思いました。その反

面、理科が専門なので、一個人として、専門としては、啓林館を使ってみたいと思いました。水溶液についても、啓林館は水溶液を区別していく力を明確に示しています。否定する訳ではありませんが東京書籍は探求という意味では少し物足りなさを感じます。ただ、大半として専門でない先生方がいらっしゃるの、そういう意味では東京書籍が適しているかと思います。

- ・啓林館99ページと東京書籍159ページの水溶液について比べてみました。啓林館の方は1と2に分かれています。1の後2を行うのかと思う人もいるのではないのでしょうか。東京書籍はアとイで説明が付け足されています。やはり理科の専門でない先生が使いやすいのは東京書籍の方ではないかと思えます。

【司会】

- ・ありがとうございました。たくさんのご意見をいただきましたが、今までの答申のなかで、皆様のご意見、ご検討から、総合的に見て東京書籍を採択することが望ましいと考えられますが。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思えます。

(承認)

【司会】

- ・拍手多数で、この件は承認されました。

【司会】

- ・これもちまして、すべての議題を終了いたします。続いて、事務局より諸連絡をいたします。

【事務局】

- ・9月1日以降、美濃地区教科用図書採択関係の情報については、情報公開対象となります。各市の情報公開条例に基づいて、適切に公開がなされるようお願いいたします。
- ・特別支援学級における教科用図書についてです。特別支援学級では、学校教育法附則第9条第1項の規定によって、教科書目録に登載されている教科書以外の教科用図書を、児童生徒の障がいの種類・程度、能力・特性等に応じた図書を採択することができます。いわゆる一般図書と言われるものです。各市村に送付されている岐阜県教育委員会において作成された一般図書選定資料を十分に活用し、採択基準の「採択に当たっての留意事項(5)」に基づいて、適正な採択が行われるようにご配慮をお願いします。

【司会】

- ・最後になりましたが、8月31日までは、本協議会の日時、場所、委員の氏名、会の内容等について、一切公表や他言することのないよう、格段のご協力を重ねてお願い申し上げます。
これもちまして、令和5年度 第3回 岐阜県教科用図書美濃地区採択協議会を終了します。